

第5章

4大プロジェクト

21世紀を切り拓く根源的自己発展型プロジェクト

21世紀に向かって新たなスタートを切るため、日本文化の原点たる出雲の地に、具体的な事業の場を創出。

議論・研究・構想・調査・企画・設計・建設・運営、そして投資、寄付のプロセスを通して心の進化を促し、新しい時代の政・官・民の役割を確立する糸口を見出します。

各々の参加者が、事業の役割分担によって、人類究極の目的に目覚め、その目的を具現化するために、各人が立脚している基盤、置かれている環境に応じて定めた目標の実現に向かって行動を起こす機会を提供。

そのために、次の4つのプロジェクトからなる『太陽の國出雲——地球ユートピアモデル事業——』構想を提案します。

本構想においては、以下の4大プロジェクトを推進。

◇心のインフラ整備

人縁・感謝と戦争の歴史記念館

◇心の首都（松江市市街地再開発構想）

◇ゼロエミッション・小規模理想郷（中海・宍道湖圏域の新構想）

◇未来を拓く研究・教育機関

（以上の各プロジェクト名は、現段階での仮称です）

これは、10年の歳月をかけて、大恐慌脱出、夢とロマンに満ちた21世紀を切り拓く根源的自己発展型プロジェクトとして起案されたものです。

今日の根源的な問題は相互信頼関係の喪失という社会問題と環境問題です。

本プロジェクトは、この2つの問題を解決する糸口を見出すため、各プロセスを関係諸国と、このプロジェクトに関心のある世界の方々との「共創」で推進。世紀末の閉塞感を打破、人類の新たな歴史の第一歩につなげることをめざして構想されたものです。

1. 心のインフラ整備

人縁・感謝と戦争の歴史記念館

趣旨・概要

本プロジェクトは、人類の進化と恒久平和のための最も貴重な財産——人間の勇気と悲しみ、英知と血の結晶としての「知的共有財産」の構築をめざすものです。

東洋と西洋の文明・文化が長い歴史の中で融合、そして現在の日本があります。人と人との出会いによって伝えられ、練り上げられた知識や技術が日本の発展の原動力でした。

出会いを「陽」とすれば、人類の歴史には戦争という「陰」の面もあります。DNAの螺旋構造、^{らせん}「出雲大社」のしめ縄のように、時間軸の中で陰陽からまり合って今日に至っています。この陰陽両面を直視しなければ、未来に向けて新たなパラダイムは構築できません。

海外から日本に知識や技術をもたらした「人」と、それを受けとめ発展させた「人」に焦点を当て、日本と歴史的に関わりのあった国々に協力を願い、史実を調査、展示。

過去の戦争に関しては、関係諸国に協力を願って、被害国・加害国となった背景・原因・経緯を調査・研究、議論を行う中で、当事国双方の中に共通の事実認識が生まれたものから未来志向で昇華。

その成果を、世界の平和と繁栄に資する人類共有の知的財産として、現代を生きる当事国の両国民と世界の人々およびその子孫にわかりやすく展示する「心のインフラ整備」としての記念館です。

この最も基本的な財産の構築を怠れば、今を生きる人たちは将来「子孫に対する義務と責任を放棄した世代」「人間としての基本的な要件を備えていなかった世代」という指弾を免れないばかりではなく、日本は混乱の極みに至り、急速に内部崩壊することは明らかです。

本プロジェクトの議論・研究・構想・調査・企画・設計・建設・運営という流れの中で、信頼関係が深まる環境が整うものと考えます。

そして、日本に対する世界の信頼回復にも道筋がつき、歴史の重圧に苦しむ世界の人々にとってモデルケースとなり、世界各地に同じようなプロジェクトが動き出し、「持続可能な地球社会の創造」につながることを確信するものです。



心のインフラ整備——人縁・感謝と戦争の歴史記念館
イメージ



「未来に向かって確かな一歩。
竹島(独島)に、
地球共生・縁結びの像を」
イメージ

〈提言〉

竹島＝独島を地球共生縁むすびの島に

「われわれ両国が善き隣人、善き友人同士として手を握り、21世紀を開拓していくのに、克服できない障害はありません」。韓国の金大中大統領は日本の国会でこう演説されました。各国国民が、文化・技術・経済の活発な交流によって、豊かで生きがいのある人類共生の未来を切り拓く。そのために重要なのは「善き隣人、善き友人同士」としての信頼関係という「心のインフラ」です。この後世に残す最も基本的な財産の構築を怠ることは、金大統領も言われたように、「将来の子孫に対して恥ずかしく、かつ、指弾されるべきこと」です。

私たちは「天寿が全うでき、楽しく愉快に持続的に生きられる地球社会の創造」という人類の根源的にして究極の目的に向かって応分の役割を担うことが21世紀において「共生できる人間の条件」であると考えます。では、今を生きる日韓両国民と在日韓国人はどんな役割を担えばいいのか——それは両国の地政学的な位置と歴史の両面に照らせば自ずと明らかになってきます。

私たちは「人縁・感謝と戦争の歴史記念館」をインターナショナル・プロジェクトとして建設する構想を提案しています。日本の国際交流の歴史を「人」に焦点を当て、日本と歴史的に関わりのあった国々の方にご協力をお願いし、史実を調査。一方、過去の戦争に関しても、関係諸国の方々にご協力を願って事実の調査を行い、当事国双方が共通の認識に至った事実の背景・原因・経緯を検証します。その成果を、世界の平和と繁栄に資する人類共有の知的財産として、現代を生きる世界の人々と子孫にわかりやすく、未来志向で展示する記念館です。

私は今、「善き隣人、善き友人同士」として日韓両国民と在日韓国人も、独自の共同事業を立ち上げるときがきたと考えます。

金大中大統領訪日時の国会演説により、新しい日韓関係が開かれたことを契機に、竹島＝独島にモニュメントを建設し、「地球共生・縁むすびの島」にしようではありませんか。現代グループの鄭周永名誉会長のご努力により開始された金剛山観光事業とリンクさせていただければ、日本の境港、竹島＝独島、束草市、金剛山を結ぶルートで「地球共生・縁むすびクルージング・ツアー」の企画も可能となります。出会いを通じて、各人が21世紀の世界で、どんな役割を担い、どう行動していけばよいかを考える糸口を見出す。これが「地球共生・縁むすび」の意味です。

このプロジェクトにご興味のある方、ご連絡をお待ちいたしております。

(<http://www.hns.gr.jp>)

島根の小松電機産業

韓国企業と業務提携

シートシャッターを販売

将来は現地生産も

小松電機産業（島根県八雲町、小松昭夫社長）は十六日、オリジナル商品のシートシャッターを韓国で販売するため、韓国企業と業務提携を結んだ。初年度は年間百台の製品輸出を目標にするが、今後の需要拡大が見込まれるため、二、三年後には技術提携を強化しKD（現地組み立て）生産を計画している。小松電機産業は昨年からは台湾で試験販売を開始し、今回の業務提携に続いてドイツ、アメリカでも販売ネットワークの検討するなど海外戦略を強めている。

小松電機産業と業務提携 設計業の東友TRADING
したのは、貿易・工場設備 G&ENGINEERING



業務提携調印後に握手する、右から小松電機産業の小松昭夫社長と韓国側の曹秀煥、秋成泰代表

G社（ソウル市、曹秀煥代表）。韓国は大陸的気候から冬は氷点下〇度以下、夏は四〇度近くにもなる。作業環境の改善、省エネについての関心が高く、シートシャッターを六月から試験販売したところ、大手の家電、自動車メーカーが三千台を導入。その後、引き合いも多いことから正式に業務提携することにした。

当面は東友が韓国の総代理店となり、販売・アフターケアを担当。東友は来年、シートシャッターの製造、組み立て工場を建設する予定で、工場完成後、提携をさらに強化し、韓国での製造・販売拠点になる。韓国での販売目標は、本年度（平成三年三月末まで）百台、来年度が五百台。ブランド名は日本と同じ「門番」で、既に韓国で商標登録している。

この日、松江市内のホテルで開かれた調印式には、

小松社長、東友の曹秀煥、秋成泰代表が出席。提携書に調印し、今後の関係強化を確認した。

シートシャッターは小松電機産業が昭和六十年に開発。超音波センサーで接近する車両などを検知し、ビニール製のシャッターが自動開閉する仕組み。高速で自動開閉できるため、冷暖房の必要な工場、倉庫で利用され、ヒット商品になっている。平成二年七月期の売上高は二十四億円で、シートシャッター三千五百台を販売。三年七月期は五千五百台の販売を計画している。

（山陰中央新報 H2.10.17）

◎企業家から社会改革家へ

東宇技研株式会社 代表理事 曹秀煥

1990年4月半ば、私は初めて出雲空港に降り立ちました。空港で名刺交換をすますと、小松社長は私を会社にではなく、まず出雲大社に案内してくださいました。参拝後、境内を1時間ほど散策しながら、出雲の歴史、日韓・日中関係の歴史的な経緯などについて話され、私も自分なりの歴史観や世界観について、心を開いてお話ししました。

ビジネスの話は最後の数分間だけでした。しかも、シートシャッター「門番」を私の会社（当時は東友トレーディング&エンジニアリング）が韓国で販売するという話が、ものの5分で決まったのです。当時、他の韓国企業多数から引き合いがきている状況下での即断即決でした。

小松社長は後に、ある雑誌の記事の中で、「東友さんを選んだのは、私と向こうの社長が意見をぶつけ合うなかで、同じ理想をもっていることを確認したからです」と述べておられます。こんな見識の高い日本人に、私は初めて会いました。仕事で日本に100回以上も出張した経験のある私の日本人に対するイメージは「細かな話にこだわって、決断がとても遅い」というものでした。小松社長は、私のそんなイメージを打ち破る、大きな人物でした。

その第1回目の面談で、「半年間テスト販売をし、正式の業務提携は10月」と決まり、1992年2月には、小松社長の「友好関係で結ばれた企業ネットワークによる世界展開」というビジョンのもと、製造技術、設計図とも無償提供いただき、現地生産を始めました。

今では、小松社長を「兄貴」のように思っています。意見があれば面と向かって、率直に言うようにしています。相談事は、まるで同じ会社の中のように、実に簡単に解決します。

そして、直接会っているときは、仕事の話はほんの2～3%の時間だけというのは今も変わりません。しかし、1990年当時の小松社長が一企業家だったとすれば、今の小松社長は社会改革家の面が強くなっているように感じられます。これは大きな変化です。

人間と自然、人間と科学、国と国といった関係を根本から見直し、調和の取れたものにする。そのハーモニーが、小松社長の掲げておられるユートピアだろうと私は理解しています。これは大事業です。とくに大きな変化を断行することが苦手のように見える日本では難事業だと拝察します。

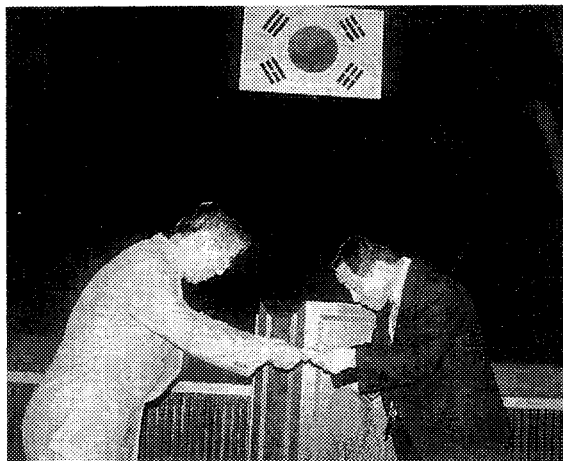
しかし、果敢な行動力で築いてこられた同志のネットワークが力を発揮すれば、大きな夢が現実のものになることを、私は信じております。

「歴史を共有したい」韓国・独立記念館に寄付

島根の小松電機産業

小松電機産業（島根県八束郡）の小松昭夫社長（53）は21日、韓国の独立記念館に100万円を贈呈した。同社は95年から毎年、社員研修で同記念館を訪れている。「歴史を共有し、韓日両国の発展の礎になりたい」と、小松社長は動機を語った。

（東京本社・李相兌）



朴維徹・独立記念館館長（右）に100万円を手渡す小松昭夫社長

社員研修で毎年訪韓 韓日親善にと100万円



小松昭夫社長

東宇技研（曹秀煥社長）と業務提携を結んだ。その曹社長に独立記念館を案内されたことが、転機になった。

「独立記念館を見て、この過去を直視し、どう未来に結び付けていくか真剣に考えた」（小松社長）結果、まず社員に見せる必要があると考え、95年に17人、96年に19人の韓国研修

小松社長が韓国とかわるようになったのは、同社の主力商品である「門番」（センサーで自動開閉し、空調・省エネ効果を高めるシャッター）が、韓国でも販売されるようになった90年からだ。

当時、日本国内で人気の高まっていた「門番」に対し、韓国での販売打診が大手の韓国企業などから来たが、小松社長は同じベンチャー企業という親近感で、視察団を派遣した。研修では「門番」を使用している三星電子水原工場を見学した後、独立記念館を訪れ、帰国後は社員に報告書をまとめさせるなど、韓日現代史の知識を、社内全体で共有するように務めている。

第3回目の研修視察団は、今月21日から24日まで行った。社員19人のほかに、取引先の企業関係者9人を含む28人で独立記念館を訪れたが、「日韓両国民の歴史認識が深まり、新たな人類の未来の活動の輪が広がることを願って」100万円を、独立記念館に寄贈した。

独立記念館側は当初、寄贈を辞退したが、「韓日親善に役立ててほしい」という小松社長の熱意を尊重して受け取る」（朴維徹館長）ことに決定した。日本人の献金は、これが初めてである。

現在、小松社長は「人の縁と感謝・戦争の歴史記念館」建設構想を立てている。

出雲に戦争の歴史を展示する記念館と研究所を作ろうというもので、その展示物に独立記念館から協力を受けたと朴館長らに相談、独立記念館の写真の一

部複写と、展示物の一部提供で内諾を得ている。「出雲の地から平和と共生社会の声を、世界に向けて発信したい」と、小松社長は抱負を語る。

（東洋経済日報 H9.6.27）



韓国の建国英雄の碑に日本人として初めて献花（1997年6月）



小松電機産業第3回訪韓研修団、独立記念館・朴維徹館長を囲んで（1997年6月）



日本の官憲による独立運動家への拷問の情景を再現した韓国「独立記念館」の蠟人形



修学旅行で、韓国「独立記念館」を訪れた日本の高校生



韓国の「独立記念館」はソウルから南に100kmの忠清南道天安にあります。約400万㎡の広大な敷地に、7つの展示館、民族の家など75棟（建坪約4万㎡）の施設が配置され、時系列で韓国の歴史を学習できるようになっています。

1982年に日本の教科書検定問題が日韓の外交問題に発展、反日感情が高まったことをきっかけに83年8月着工。以後4年の歳月をかけて、87年8月15日に開館しました。企業および広範な国民からの募金为建设費用に当てられました。

このため「独立記念館」は韓国国民で知らない人はいない施設になっていますが、日本人のツアー・コースに組み込まれることはありません。ただ、修学旅行は例外で、現在まで2万5千人を超える日本の高校生がこの記念館を見学、「とてもショックを受けた」「日本人に生まれたことが悲しい」といった感想文を残しています。

98年11月には、ソウル市内に「西大門刑務所歴史館」も開館。日本の植民地時代の独立運動家たちの精神を学ぶ歴史教育の場になっています。

韓国以外のアジアの国々でも、中国の12カ所を筆頭に、戦後、歴史記念館が次々に建設されており、41ページのリストの通り、アジア全体で30カ所を超えています。それらの記念館を多くの人々が訪れ続けているという現実があるのです。私たちはこの現実を踏まえて、今、何をなさねばならないか、考えてみる必要があるのではないのでしょうか。

●アジアの「戦争と平和」博物館

〈中国〉中国人民抗日戦争記念館、蘆溝橋、
九・一八事変博物館、
侵華日軍南京大屠殺遇難同胞記念館、
侵華日軍第七三一部隊罪証陳列館、
東北烈士記念館、
孫呉県日本侵華罪証陳列館、
平頂山殉難同胞遺骨館、
撫順戦犯管理所陳列館、
張学良公館、中国人民革命軍事博物館、
中国革命博物館

〈台湾〉中正記念堂、霧社蜂起事件、
愛国乙女サヨン遭難之地碑

〈韓国〉独立記念館、安重根記念館、提岩教会、
戦争記念館、パゴダ公園、
西大門刑務所歴史館

〈朝鮮〉朝鮮革命博物館

〈ベトナム〉軍事博物館、ホーチミン廟、

ソンミ記念館、統一会堂、
クチの地下トンネル

〈カンボジア〉 ツールスレイン収容所、
キリングフィールド

〈タイ〉 カンチャナブリ戦争博物館、
JEATH戦争博物館、泰緬鉄道

〈シンガポール〉 セントサ島戦争資料館、晩晴園、
チャンギ刑務所博物館

〈日本〉 広島平和記念資料館、長崎原爆資料館、
如己堂・永井記念館、
沖縄県立平和祈念資料館、
ひめゆり平和祈念資料館、
南風原文化センター、第五福竜丸展示館、
埼玉県平和資料館、川崎市平和館、
立命館大学国際平和ミュージアム、
大阪国際平和センター、
大久野島毒ガス資料館

문화 일보

1998년 7월 8일 수요일 23

요즈음

“일본 50代가 나서 韓·日관계 개선시켜야”

■ ‘韓赤에 대북지원금 5천만원’ 낸 대기업가 고마쓰 씨

일본 시마네(島根)현에서 벤처기업인 고마쓰(小松)전기산업을 운영하는 고마쓰 아키오(小松昭夫·54·사진) 사장이 7일 대한적십자사를 방문, 鄭元植(정원식) 총재에게 대북지원금 5백만원(5천만원 상당)을 전달했다. 그는 지난해에도 독립기념관 운영비로 1백만원(1천만원)을 회사한 바 있다.

—한국을 방문해서 대북지원금을 낸다는 게 쉽지 않은 일인데 한국과 특별한 인연이 있는가.

“시마네현이 한반도와 가까워 예부터 친근감을 갖고 있을 뿐이다. 또 30, 40대의 전후세대보다는 이 시대를 두루 체험한 50대들이 한·일 관계를 풀어야한다고 생각했다.”

—한쪽에 기부금을 낸 이유는.
“일본에도 적십자사는 있다. 그러



민간기구가 (일본)정부 눈치를 보며 지원사업조차 하지 않는데 대해 경종을 울리기 위해 한적을 찾았다.”

—대북지원작업에 참여하게 된 동기는.

“인간은 누구나 굶주리거나 부당하게 학대당하지 않고 편안하고 자유롭게 살 권리가 있다. 북한체제에 대한 견해는 다를 수 있지만 북한 사람

나 북송 일본인처고 항방문사업이 중단된 후에는 일본적십자사마저도 대북지원사업을 하지 않고 있다.

들도 최소한 인간적 대접을 받아야 한다는 생각을 갖고 지원금을 냈다.”

—앞으로도 대북지원사업을 할 계획이 있는가.

“돈 몇푼 주고 식량을 얼마 주는 것은 근본적인 치유책이 되지 못한다. 내년부터 북한 근로자들을 일본에서 고용, 북한에 경제적 도움을 주고 근로자들의 의식도 변화시키는 사업을 시작할 계획이다. 99년부터 건설 작업에 들어가는 시마네현 역사기념관에 북한노동력을 활용하는 방안을 적극 검토중이다.”

시마네현이 고향인 고마쓰 사장은 마쓰에공고 졸업 후 73년 고마쓰전기를 창업한 고졸출신 엔지니어이다. 85년 개발한 고속 자동문이 일본 전역에서 돌풍을 일으키며 벤처기업인으로 주목받고 있다. <李美淑기자>

(文化日報 H10.7.8)



大韓赤十字社・鄭元植總裁に北朝鮮食糧支援金500万円を寄贈 (1998年7月)

〈提言〉

日中、信頼回復への道

平成10年2月19日、島根県八束郡鹿島町の恵曇漁港に中国からの「集団密航」がありました。

その中に、李雪梅さんという25歳の妊婦が含まれていました。出入国管理法違反（不法入国）の罪に問われた李さんは、日本に来たのは中国の人口抑制策の下では2人目の子供を出産できず、「第2子出産のための緊急避難だ」と主張。

7月22日、松江地方裁判所で1審判決があり、長門栄吉裁判官は検察側の懲役1年の求刑に対し、密入国行為は有罪としながらも「心情は同情に値し、酌量すべき余地は大きい」と「刑免除」の判決を言い渡しました。李さんは、判決直後、出産を理由に広島入国管理局から1ヵ月間の仮放免の許可を得、島根県内の身元保証人に引き取られました。

これに対し、松江地方検察庁は判決を不服として、8月1日、理由を明らかにしないまま控訴。

その後、8月31日、李さんは松江市立病院で女兒を出産。女兒は日本国籍は取れませんでした。

弁護人の水野彰子弁護士は、国に李さんの難民認定（国籍のある国で社会的・政治的に迫害される恐れがある外国人が生活保護などの面で日本人と同じ待遇が受けられる保護制度）を申請していました。しかし、9月29日、広島入国管理局（法務省）は申請を不認定としました。これにより、10月末で在留期限が切れ、女兒ともに強制退去させられる可能性が出てきました。このため、李さんは10月1日、不認定に異議申し立てをしました。

強制送還の対象となった後も仮放免は認められていたため、李さんは島根県を出て、東京都内のボランティアグループの寮に身を寄せていました。その後、病気になり入院、女兒を児童相談所に預けました。ところが、平成11年1月8日、病院で診察を受けた後、ボランティアの付添人に「外の空気を吸ってくる」と言い残したまま、「日本語も話せない、所持金もない」という状態で失踪。女兒は児童相談所に預けられたままとなりました。毎月行う更新手続きの期日である1月20日になっても行方知れずで、28日には仮放免の期限も切れました。

2月15日、広島高裁松江支部（角田進裁判長）で、被告人不在のまま控訴審の初公判が行われました。その中で、弁護側は「この先の身の振り方に不安を抱き、将来を悲観した」と失踪の理由を説明、就労目的の逃走ではないことを強調しました。裁判は即日結審し、判決

は4月26日の予定でしたが、4月19日、「判決を直接言い渡すべき被告人が不在」ということで、無期延期となりました。

戦前、中国に日本軍が侵攻、そして敗戦の混乱時に、大陸には多くの日本人「残留孤児」が残されました。当時の厳しい政情と衣食住が極度に欠乏する中、中国の人々は自分の子供と偽って日本人の孤児を育ててくださいました。また、官憲の皆様も日本人の子供と知りながら、それを公にされませんでした。「戦争中、中国で残虐な行為を働いた日本人の子供とわかれば、どんな迫害に遭うかわからない。また成長した後、正業に就くことも難しくなる」との思いから、中国人の子供として育てていただいたはずです。

このような歴史的経緯と、近年、地域レベルでも姉妹都市縁組み等たくさんの方々の努力と費用をかけ、官民あげて国際親善が推進されている現状を考えれば、衣食住の満ち足りた現在の島根県で誕生した女兒のいる李雪梅さんに対して示した島根県司法当局（松江地検・裁判所・弁護士界）の対応は、国際親善に対するこれまでの努力を無にするものです。それにとどまらず、「人間としての基本的要件を備えていない」と言われても仕方がありません。

有罪か無罪か、刑の執行か免除かを論ずる以前に、日本の地で生を享けた女兒の将来について思いをめぐらせたことがあったでしょうか。母親が法廷の場に立たされたということ自体が、その子にとって、中国に帰ろうと日本で生きようと、あるいは世界のどこで生活しようと「国を捨てた密航者の子供」というレッテルが生涯つきまとうことを意味します。また、その女兒が将来出産する子供もまともな人生を歩むことが不可能になります。

憲法の根本的精神である「基本的人権の尊重」の意味を体得していれば、李雪梅さんを裁判にかけられないはずで、仮に起訴されたとしても、それを受理してはならず、弁護士も最初に「子供の将来を考えれば、この問題は法廷で扱うべきではない」と主張すべきではなかったでしょうか。

特権意識だけ肥大化し、自分の発言や行為が相手や周囲そして国際関係にどのような影響を及ぼすか考えることもできない、人間性の欠落した人々の集団「島根県司法界」……戦後の経済発展の過程でエコノミックアニマルといわれ世界で孤立化が進む中であって、今回の対応により、国家の要である司法界の実態が全国・世界に発信されてしまいました。

このように司法界の言動が一般社会と乖離する要因はいろいろありますが、なかでも社会との接点である弁護士界に大きな問題があるように思われます。独占禁止法に違反した弁護士料の協定料金制度、弁護士会に所属しなければ弁護士活動が不可能な閉鎖性、徒弟制度としての「いそろう弁護士制度」、一度資格を取れば一生審査がない「終身弁護士免許」。きわめつけは、島根県の弁護士会は、「非合法的な利益供与」として、裁判所内に弁護士事務所「待合室」という私的利益の提供を受けているという事実です。

これらにより、司法界内部の癒着が進み、裁判制度が司法界に属する人たちの権益と金儲けの道具になっているのが実態です。このため、裁判官、弁護士同士の馴れ合い体質を生み、かつ顧問弁護士制度を通じて政・官・財が癒着、社会を蝕む根源的理由となっています。

このような司法界の現状を放置すれば、島根県民・日本人全てが世界の人々に非人間的集団とみなされてしまいます。国民がこういうことを見過ごすことが戦争勃発の遠因となってきたことは歴史が示す通りです。世界唯一の平和憲法を持つ日本は、この点を最も重要視すべきではないでしょうか。

ここに、「国籍法を改正し、李雪梅さんの女兒に日本で初めての2重国籍実現」を提言します。成人に達するまで2重国籍を認め、制約のない生活環境を保証すべきです。

成人に達した後、子供本人に国籍選択権を行使させるのが、基本的人権を標榜する国家の本来のあり方ではないでしょうか。これを機会に、日本でも国籍について非論理的な「血統主義」から「出生地主義」へ転換・2重国籍実現を提唱いたします。

アメリカでは国内で生まれた子供はアメリカ国籍を取得できる「出生地主義」を取っています。これに対して「血統主義」の日本では、父親だと思われる人が外国籍の場合、日本国内で産まれた子供でも日本国籍を取得できません。最近、ドイツでは血統主義から出生地主義へ転換し2重国籍を認めようという議論が高まり、すでにフランスやベルギーでは帰化における2重国籍を容認しています。そんなことをすると、海外から膨大な数の人々が日本に押し寄せ、国内秩序が混乱すると危惧する人々がいます。

しかし、「出生地主義」への転換は、日系企業のアジアでの展開が急速に進み、食糧の70%以上、エネルギーの95%を輸入に依存、高齢化が進む日本が世界で生きていく上で必要不可欠ではないでしょうか。双方の文化を理解する人が日本国内に出現し「架け橋」として活躍するようになれば、最近世界的に話題になっている『文明の衝突』でハーバード大学のハンチントン教授が述べているような日本の孤立化と滅亡の回避につながります。

過去の歴史を踏まえることなく、「外国人が増えれば国内秩序が混乱する」ということばかりを強調するような、ものごとを長期的、多面的、根源的に考えることのできない不見識な人々や、たとえわかっているにもかかわらず自己保身から何も発言せず、行動にも移せない無責任な人々が、日本では司法界を筆頭に支配的な地位に就いています。その弊害が子供の問題をはじめ現在起きている深刻な社会問題の元凶になっているといっても過言ではありません。

第2次大戦中、ドイツの一般大衆は、時の政府がユダヤ人に対して残虐行為を働いていたことをそれとなく知っていたにもかかわらず、何も行動を起こさなかったことが、人類史上例のない大量虐殺につながったのは周知のことです。

同様のことは、日本でも起きました。戦前、支配的な地位にある人たちの不見識と無責任

を国民が放置した結果、軍部の暴走を許し、経済的困窮に陥り、満州事変、第2次世界大戦へと突入、最近大きな問題になっている「731細菌部隊」に代表されるような非人間的な行為の末に、人類史上唯一の被爆国となってしまいました。

今を生きる日本人・島根県民の義務と責任において、この運動を進めることは、李雪梅さんの子供の未来への道を拓き、日中信頼回復、そして世界の中で信頼される国（小渕総理のめざしておられる「有徳国家」）への第1歩と確信します。法治国家である以上、社会改革は司法界から始めるしかありません。とめどなく不祥事が続くのは、今までこの部分にメスが入れられなかったからにほかなりません。

これを機会に新しい日本をつくるべく議論の輪を広げ、未来への道筋を見つけようではありませんか。世界的な激動期の今起ち上がらなければ手遅れになります。

（記名・無記名問いません asyura@hns.gr.jp）

——最大の加害者は最大の被害者である——

妊婦の難民申請認めず

鹿島の中国人集団密入国

広島入国「迫害の裏付けなし」 管理局

日本で第三子を出産するため、二月に島根県鹿島町に集団で密入国したとして、一審で入管難民法違反罪ながら刑を免除された中国人李雪梅被告（三）が申請していた難民認定について、広島入国管理局は二十九日までに、中国で出産による迫害を裏付ける具体的な証拠がないとして、申請を不認定とした。同被告は合法的に国内に滞在できなくなり、入管に再審査を求め異議申し立てする意向を固めた。

同被告は、今後の仮放免申請の結果や控訴審に関係なく、八月三十一日に島根県内で出産し、十月末で在留期限の切れる女兒とともに強制退去せられる可能性もある。担当の水野彰子弁護士は「不認定の理由がいまいで納得しかねる」と不満を表した。

刑事裁判では同被告側は「緊急避難」による無罪を主張。松江地裁は七月、「被告や胎児の生命、身体に差し迫った危険があったための行為で、同情に値する」として刑の免除を言い渡し、松江地検が同判決を不服として控訴している。

難民認定申請の通知は、本人が出向いて直接確認することが条件。李被告はこの日、松江市母衣町の広島入管松江出張所を水野弁護士らとともに訪ね、担当者から結果を聞いた。併せて一カ月間の仮放免申請の更新手続きを取った。

難民認定は、国籍のある国で社会的、政治的に迫害される恐れがある外国人が、生活保護などの面で日本と同一の待遇が受けられる保護制度。法務省によると、日本への密航者が出産を理由に難民申請したのは初めて。李被告側は、中国で女兒を産んだ後に強制中絶を受けており「再び中絶するのは嫌だった」などとし、異例の「温情判決」も出たことで、難民申請に対する同省の判断が注目されている。

入管によると、今年は八月末現在、全国で八十四件の申請に対し八件が認定された。しかし年間五十件から二百五十件程度の申請があった平成六年から昨年にかけ、毎年一件の認定にとどまり、厳しい審査結果が出ている。

(山陰中央新報 H10.9.30)

宙に浮く南京事件告発本の邦訳

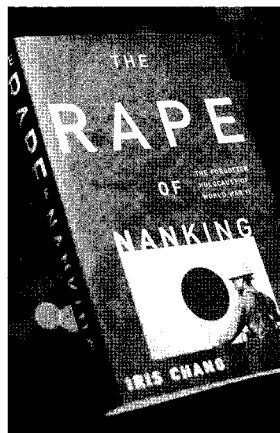
擦れ違う歴史への「視線」

表層深層

史実隠ぺいと不信感 海外メディア
日本側派 記述の不正確さ指弾



アイリス・チャン



邦訳が出版延期になった旧日本軍による南京大虐殺を書いた「ザ・レイプ・オブ・ナンキン」

旧日本軍による南京大虐殺を書き、米国の五十万部のベストセラーになった「ザ・レイプ・オブ・ナンキン」の邦訳出版が突然延期になり、宙に浮いている。著者の中国系米国人ジャーナリスト・アイリス・チャンさんが、邦訳と同時に解題書の刊行を計っていた柏書房（本社東京）にクレームをつけたことがきっかけだ。一九九七年の出版以来、記述や引用等について「事実誤認が多い」「自己中を露にするなど論争的」として論議作。邦訳をめぐるトラブルから、日本の戦争責任の対応の仕方をめぐる問題が浮かび上がる。

アジヤにも広がった。在米日本大使館は「原書は『非難不正確な記述が多い』と反論したが、現状に水を。日本国内では、歴史教育を定めた『新しい歴史教科書をつくる会』が、原書の誤りを詳細に指摘し、シンボリズムを開発。同会副会長の藤岡信勝・東大教授は「出版の延期は当然の結果。私たちがの成果は、歴史教育に大きな影響を及ぼす」と警告。こうした動きが海外では日本側の「まかしとらえられたのも事実で、チャンさんは歴史問題に絡む右翼的な勢力で日本には言論の自由がない。日本では出版できないだろう」と不信感を抱いている。日本の説明不足指摘。チャンさんははじめ欧米・アジアのメディアは、虐殺の事実を認めないことが問題で、日本側は主権を主張する前に記述の不正確さを指摘する。『史実と記述』。藤岡は「史実と記述」を明確に区別し、チャンさんは「原書中、国側の主張をうのみにた欠陥の多い本」として上で、チャンさんは六八年米国内で多くの著作が出ている歴史を調べる過程で南京事件を知り、二十万人以上の犠牲者が行われたのに、日本側は事件を隠ぺいしているとの強い不満を述べた。この著書の渡辺和行・奈良女子大教授は「政府関係がほとんど知られていないが、ほとんどの米メディアはセンセーションに取られ、米下院では日政府の公式謝罪を求める、法議案への支持が事実上、新華社など日本非難の声を上げ、日本は非難の嵐は国内にもつたのではないかと述べている。

(山陰中央新報・共同通信社配信 H11.3.5)

「南京事件」告発本

真偽で批判、著者と確執

邦訳の出版延期

日中戦争の一九三七年末から翌年にかけて、旧日本軍が多数の南京市民らを虐殺、暴行したとされる「南京事件」を告発し、米国内でベストセラーとなった「ザ・レイプ・オブ・ナンキン」の日本語版の出版が延期された。原作の掲載写真の信ぴょう性や過激な描写に対して批判があり、東京の出版社が改訂を打診した。しかし、著者側が原作に忠実であるよう求めて応じず、出版交渉が暗礁に乗りあげたためだ。この間、出版社が脅迫されるなど不穏な動きもあった。著者は六八年生まれの中国系米国人ジャーナリスト、アイリス・チャンさん。原作は九七年末に出版され、米紙大手の書評やテレビで激賞された。これまでに約五十万部が売れているという。中国と台湾でも翻訳されている。南京陥落までの経過や虐殺の様々を、元兵士の回顧録や内外の学者の見方などを交えながら描写している。昨年春ごろから、記載の犠牲者数やその根拠、掲載写真の真偽について日本の月刊誌などが批判を始めた。四月には、斉藤邦彦駐米大使が「不正確で一方的な見解だ」などと発言。中国の在米大使館が「南京大虐殺は歴史的事実」と反論する事態に発展した。出版元の柏書房によると、チャンさんは固有名詞の間違いなど約十カ所の修正には応じたものの、訳注や解説を付けることについて拒否したという。そこで柏書房は、南京事件の研究成果や、月刊誌に登場した批判を転載して別の本にまとめ同時に刊行し、英語版も出そうとした。出版予定がチラシなどで広まると、柏書房に出版取りやめを要求する電話が寄せられるようになった。二



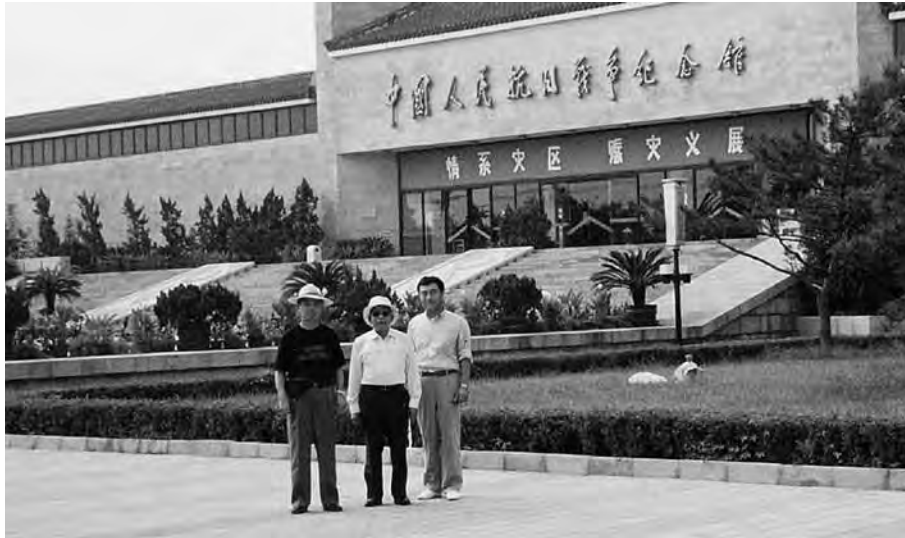
◀ 旅順・日本軍監獄跡にて（一九九八年八月）
左より河原八郎氏（株）エブリプラン社長、
小松昭夫、張玉芝氏（旅順包装工場総経理）



▶ 侵華日軍南京大虐殺遇難同胞記念館にて
（一九九八年八月）
左より小松昭夫、森脇周一氏（三光電業（株）
会長）



◀ 蘆溝橋にて（一九九八年八月）
左より河原氏、森脇氏、李曉明氏（大連三高
機電控製有限公司副総経理）



▲蘆溝橋・中国人民抗日戦争記念館にて
(一九九八年八月)
左から小松、森脇、河原氏



▲南京・記念館内当時の新聞記事の展示

▶同記念館内蠟人形



▶同記念館内蠟人形(人体実験)



▲旅順・日本軍監獄跡の扁額「永矢不忘」



▲同記念館「全国中学校・愛国主義教育基地」の表示

三ツ 談議

島根県八雲村から、北に宍道湖を望む松江市乃木福富町の「松江湖南テクノパーク」にこのほど新社屋を移設した電機機器製造メーカー、小松電機産業は「シャッター」に着目してニュービジネスを成立させた。従来は主に防犯目的だった金属性のシャッターを、軽い抗菌シート地で自動開閉する「シートシャッター」に変身させたことから、工場などの産業用に急成長。現在、この分野では全国シェアの60%を占める。また、新社屋移設の記念事業として、中国の26の大学と多くの専門家が編さんした歴史資料「伝世蔵書」を購入するなどユニークな試みも目立つ。小松昭夫社長(54)に、こうした企業理念を聞いた。【堀川 誠】

小松電機産業社長 小松 昭夫さん



1973年に島根県八雲村で創業。社の合言葉は「社業を通じて社会に喜びの輪を広げよう」。85年にセンサーで人や物を感知して、自動的に開閉する高速シートシャッター(シート地のシャッター)「門番」を開発し、これを機に全国展開。東京にも支社を置いて事業を拡大し、シートシャッターの省エネや防じん、食品衛生などのメリットを生かして全国の工場や倉庫などに導入されている。さらに上下水道制御・監視システムなども開発。小松社長は「従業員が自由かつ達に、仕事ができる環境を作ること、気を配っています」と話す。従業員86人。資本金1億円。年商約42億円。

——新社屋は宍道湖のすぐそばですが、水辺を選ばれた理由は。

私の10年前からの構想を具現化する第一歩の土地。物事は人の思いが確立して、道筋が見えてくる。そういう場所はどこかと探していたとき、市が造成中のこの土地を知り、新社屋を建てました。昔、ロサンゼルスは砂漠だった土地にダムを建設して湖を作り、そこから発展した都市だと聞いたことがある。人の創造力、構想力、バランス感覚

電機業界 ソフトの時代へ

——アジアの中でも特に中国との友好に力を入れているようですが。

4、5年前に韓国を訪れた時、日本と韓国、中国の歴史について、今の我々が

——中国の歴史資料である「伝世蔵書」を購入したいきさつは。

「伝世蔵書」は中国政府や企業グループ、専門家が約6年かけてまとめた歴史書です。従来、日本には国立国会図書館と東大図書館の二つしかなく、わが社

をどう見ますか。

これまで、電機業界はハード中心でしたが、これからソフト中心の時代。自動車、生命保険、金融機関など世界的に再編成の機運が

——今後、目指す姿を教えてください。

企業のトップは、現状認識と将来展望を考えなければならぬ。どうすれば、アジアの人たちの役に立つことができるかが求められている。今、日本は変革期です。こういう時は原点に

戻ることです。原点には二つあり、一つは目に見える原点の「原理」、もう一つは心の中の原点の「心理」。この二つにさかのぼって物事を考えることです。

自分は事業家です。言ったこと、やったことを立証しなければ信用が得られない。人間の社会には必ずみがあります。その中で整合性を保たなければなりません。私が掲げている、貴重な汽水湖、中海を利用した「中海本庄工区の干拓地事業計画」、松江市を観光だけでなく、一般市民にも安心して暮らすことのできる都市にする「松江心の都構想」。これらの具現化のために、これからも活動していきます。

(毎日新聞 H10.6.23)



『传世蔵書』購入記念の楯

中国では歴史上、2度の大がかりな文献整理が行われました。明朝の永楽帝による『永楽大典』（1403～1407）と、清朝の乾隆帝による『四庫全書』（1772～1781）で、中国の2大文化遺産と言うべきものです。

1997年3月、誠成企業集団（中国）の企画・全額投資と海南国際新聞出版社の刊行による『传世蔵書』は3度目の大規模な文献整理であり、中国国内26の有名大学研究機関の学者、専門家、2700名が6年の歳月を費やし完成したものです。

先秦から清末に至る1,000種類の歴史、小説、医学、宗教、兵法、占術、芸術など、全30,000巻、総字数3億にのぼる膨大かつ貴重な資料が、簡体字により収録されています。（伝世蔵書パンフレットに依る）

小松電機産業(株)では、平成10年(1998)5月、新社屋竣工・創業25周年記念事業として、この『传世蔵書』を民間としては初めて購入。この書物が、日中両国の信頼の回復と、よりよい関係が築かれるきっかけとなることを願って、島根大学に寄贈。

2. 心の首都(松江市市街地再開発構想)

趣 旨

本企画は、近年、荒廃著しい青少年問題の解決のため、人間本来の価値観（利己から利他へ）を育む教育の場を創出することをめざします。

日本の戦後教育は断片的な知識の記憶を偏重してきました。「命とは何か」「人間は何のために生きるのか、何をなすべきか」を考えさせ、社会における自己の役割意識を高め、「心の進化」を促す教育を怠って、今日に至っています。加えて、今の子供たちはコンビニエンスストア、自動販売機に代表される命と人のぬくもりの感じられない便利一辺倒の消費生活と、テレビやコンピュータゲームによる「仮想現実」に浸っています。その結果、とくに都会では子供たちの「生命感覚」が希薄になり、多発する残虐な犯罪の原因のひとつになっています。

命の原点の体感と、教育による死生観の確立が、心のゆとりと進化を促す。

そのための「心の首都」として、衰退著しい松江市寺町界隈を、寺院を活かして再開発。新しい時代を拓く、「真理に立脚した心の教育の街」「人間教育旅行（修学旅行）の街」「人生の師との出会いの街」が誕生することになります。

概 要

◇大講堂

松江市大橋川南部・寺町界隈の寺院を残し、墓地のみ移転。

跡地に、多くの人が同時に調理できる設備の整った、宿泊可能な「畳敷き大講堂」を多数建設。そこで、「命の原点の体感と、死生観確立の教育」を実施。

中海・宍道湖圏のドリームマリンランドで自ら捕獲した魚貝類を観察、自分の手で調理して食べることにより、「命をいただいて生かされている」ことを体感、「いかに生きるべきか、何をなすべきか」「人間の定義とは」を議論する中で、各人が本来の役割にめざめる「場」ときっかけを提供。

また、「食」についての基本的な考え方の講話や、調理の基礎、作法の実習を行います。

災害等の非常時には、大講堂を応急生活施設として活用。この地域は出雲・米子の両空港から近く、また周辺には多くの港湾が整備されており、人々の緊急・大量移動に最も適した地域です。

現在、非常時の避難所として体育館が使われますが、非人間的な環境といわざるをえません。

これに対して、「心の首都」に建設される大講堂は畳敷き、可動式間仕切り、多数の調理施設も完備しているため、人間として最低限の生活が保証されます。

◇高徳顕彰と人間としての生き方を後世に伝える ハイテク五重塔

構想実現にご尽力いただいた方々の「高徳」を永遠に顕彰、人間としての生き方を後世に伝える「展望台付きハイテク五重塔」を建設。

塔の中は「陰と陽」の空間で構成。

「陰」には、斎場、弔問交流の部屋、貸衣装・貸しロッカーなどを設置。

また、各寺の住職や、この構想に協賛してくださった方々の像も安置。

「陽」には、「人生と健康」をキーワードとする展示場・研修室を開設し、心身ともに健康になる考え方と食事の研修を実施。

さらに、人間の生き方のモデルになった先人に学ぶ殿堂を開設

◇一村一志運動記念館

古来、日本は瑞穂の国といわれてきたように、水田稲作によってアジアの中でも独特の文化を育んできました。しかし、山国のため傾斜地がほとんどで、宿命的に稲作は水害との戦いでした。このため、全国に治水事業に生涯をかけた偉人が多く生まれました。今日の豊かな生活は、その上に築かれたものです。

その志を後世に伝え、次なる時代を担う人々の指針とするべく「一村一志運動記念館」を設立。

旧日本銀行松江支店または支店長官舎に、島根県はもとより全国の治水の偉人の業績とエピソードを集め、コンピュータグラフィックスと蠟人形で展示。



心の首都(松江市市街地再開発構想)

イメージ

心のインフラ整備

——「寺院のあるまち」を活かして、現在の社会問題解決を——

＊平成11年（1999）には松江市で「第6回寺町サミット」が開かれる予定になっています。「寺町」という地名が残っており、そこに多数の寺社仏閣が集積しているという条件を満たす7つの市——長野県飯山市、福井県大野市、石川県金沢市、岐阜県岐阜市、新潟県上越市、富山県高岡市、島根県松江市——が平成6年（1994）に「寺院を生かしたまちづくり」を統一テーマに「寺院群都市会議」を結成。以来、毎年1回開催されているのが「寺町サミット」です。

その趣旨は「人々の価値観が多様化し、従来の画一的なまちづくりから、地域文化や伝統を生かしたまちなみ形成など、個性あるまちづくりへと転換が進められつつあるなか、寺院のある風景の特性や、その文化的・歴史的な価値を再認識し、21世紀に向けて各々の個性を生かした寺院群のまちづくりについて考えたい」（「第5回寺町サミット」パンフレットより）というものです。

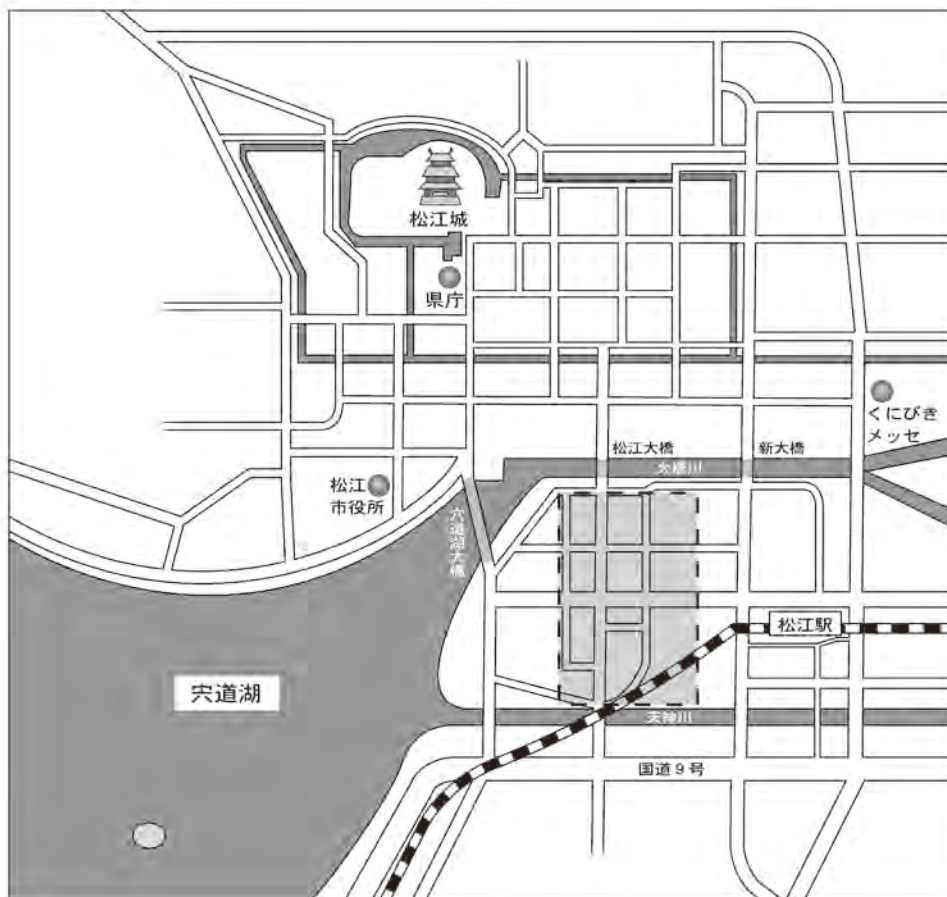
松江市の場合、市内118の寺院の内、大橋川南側の「寺町」周辺地区に26の寺院が集積しています。現在、「寺町」周辺地区は寺院、民家、商業施設、飲食店、そして約9000基のお墓が混在し、雑然とした景観になっています。近年、この地区の高齢化と人口減、商店街の衰退など「空洞化」現象が顕著になってきました。まさに、21世紀に向けて「寺院を生かしたまちづくり」が大きな課題です。

＊「各寺院群の誕生から形成までそれぞれ固有の歴史を保有しています。歴史を知ることは未来を探ることにもなります」（「第5回寺町サミット宣言」より）

松江市の「寺町」寺院群は、松江藩初代藩主堀尾吉晴が松江を城地と定め、慶長12年（1607）頃開始された松江城の築城とともに寺を強制的に移転させ、防衛線として城下町の南東部に集積させたもの、という説があります。

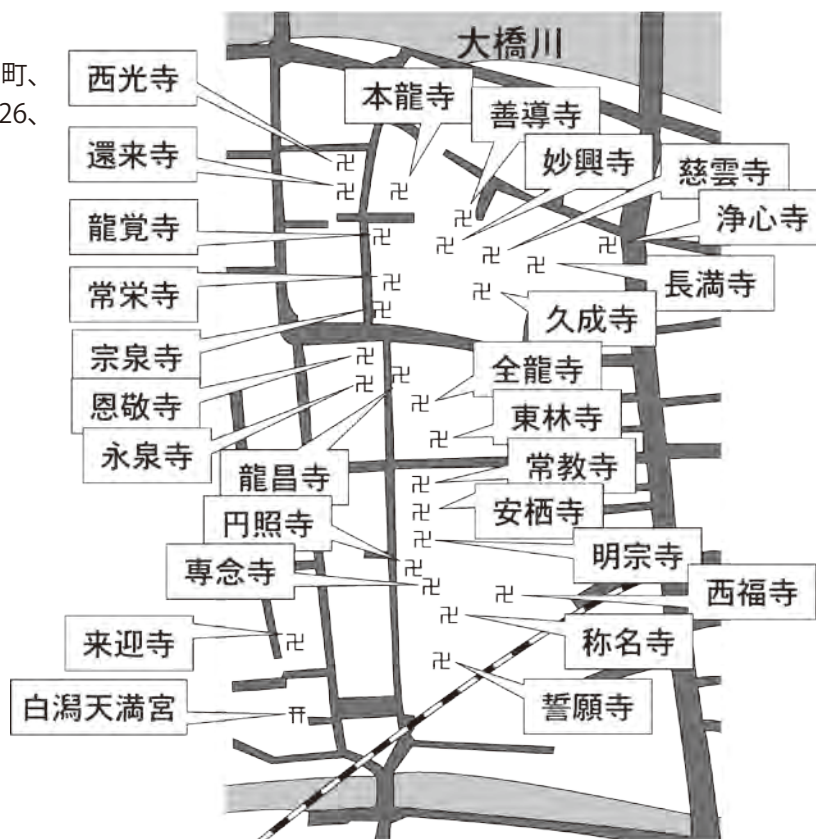
しかし、狙いは単に「防衛」のためだけだったのか。なぜ、宗派の異なる多数の寺院を集めたのか。堀尾氏3代、京極氏1代、松平氏10代という藩主の変遷との関係はないのか。寺院の境内ないし隣接地に墓地を設けたのはなぜか。

このような点を、歴史を振り返って検証することは、「寺院を生かしたまちづくり」をめざして、未来への道筋を切り拓いていく上で必要不可欠であると考えます。



寺町周辺

松江市 3 町（寺町、天神町、和多見町）でのお寺の数 26、神社 3



松江市寺町周辺の寺院

寺 院 名	宗 派	寺町での創建時期
1. 浄心寺	曹洞宗	慶安3年（1650）
2. 善導寺	浄土宗	正保元年（1644）
3. 本龍寺	真宗大谷派	慶長15年（1610）松江開府時
4. 西光寺	真宗大谷派	慶長年間（1610年頃）松江開府時
5. 還来寺	真宗大谷派	不詳
6. 龍覚寺	曹洞宗	応永年間（1394～1427）
7. 常栄寺	曹洞宗	永禄6年（1563）
8. 宗泉寺	曹洞宗	文安2年（1445）
9. 妙興寺	日蓮宗	慶長年間（1610年頃）松江開府時
10. 慈雲寺	日蓮宗	慶長年間（1610年頃）松江開府時
11. 長満寺	日蓮宗	天正10年（1582）
12. 久成寺	日蓮宗	不詳
13. 恩敬寺	真宗大谷派	寛永14年（1637）
14. 永泉寺	真宗大谷派	不詳
15. 龍昌寺	曹洞宗	文正元年（1466）
16. 全龍寺	曹洞宗	不詳
17. 東林寺	浄土宗	慶長13年（1608年）松江開府時
18. 常教寺	日蓮宗	不詳
19. 明宗寺	浄土真宗本願寺派	慶長18年（1613）
20. 西福寺	浄土真宗本願寺派	不詳
21. 円照寺	浄土真宗本願寺派	寛永7年（1626）
22. 専念寺	浄土宗	慶長13年（1608年）松江開府時
23. 称名寺	浄土宗	慶長13年（1608年）松江開府時
24. 誓願寺	浄土宗	慶長13年（1608年）松江開府時
25. 来迎寺	浄土宗	慶長年間（1610年頃）松江開府時
26. 安栖院	曹洞宗	不詳

※東林寺は平成11年に移転。

「郷土の偉人」にスポット

児童文学・小説・漫画の3点



洪水防ぐため岩山くりぬいた周藤弥兵衛

育成に結び付ける。

HNS研究所は、水処理装置な

の三点セットで紹介することで、活字離れが言われる子供たちに読書の機会を提供する。

郷土の偉人にスポット——。HNS（人間・自然・科学）研究所（島根県八雲村、小松昭夫社長）

（松江市、小松昭夫代表）は、江戸時代に四十二年かけて岩山を削

成、社会貢献を担当している。活

材育成の「刺激剤」

人材育成の「刺激剤」

HNS研究所

小説・児童文学・漫画を出版

り、切り通しを開いた周藤弥兵衛 動の一環として地域の「人と水」

を紹介する小説、児童文学、漫画をテーマにした出版を続ける予定

を同時に出版した。郷土のために、全国の自治体などに「郷土の

生涯をささげた先人の足跡をたど 偉人」の再発見を働き掛ける。先

ることによって、町おこしや人材の活動を小説、児童文学、漫画

周藤弥兵衛は出雲の国日吉村

（現在の八雲村）の下郡（大庄屋）

で、洪水を繰り返す意宇川の流れ

を変えるため、五十六歳から岩山

をくりぬく作業に入り、一七四七

年、九十七歳で切り通しを完成。

菊池寛の「恩讐の彼方に」で知ら

れる「青の洞門」に先立つ事業と

される。本の価格は小説千四百円、

児童文学と漫画がそれぞれ千三百

円。

（日本経済新聞 H7.4.19）



偉人・周藤弥兵衛の伝記

HNS研究所が出版

念く 記で 松江シ

島根県八雲村を洪水から救った江戸時代の偉人・周藤弥兵衛の一生を描いた伝記がHNS（人間・自然・科学）研究所（松江市、ホテル千鳥町）で開かれたシンポジウムに松江市千鳥町、ホテル

周藤弥兵衛の伝記出版を記念して開かれたシンポジウムに松江市千鳥町、ホテル

科学）研究所（松江市、小松昭夫代表）により刊行され、二十八日、松江市内のホテルで出版を記念するシンポジウムが開かれた。

同研究所は、制御機器メーカーの小松電機産業（八雲村、小松昭夫社長）が昨年十月に設立。地元

の先人の偉業紹介を通して郷土愛をほぐもうと伝記出版の準備を進めてきた。

周藤弥兵衛は、八雲村の治水に生涯をささげた人物で、五十歳代半ばから四十年余りにわたり岩山を削り、はんらんを繰り返して

(山陰中央新報 H7.4.29)

「郷土の偉人」を発掘

一村一志運動を提唱
HNS研究所が伝記



この「一村一志運動」もその一環。事業を導き、地域に貢献した先人の活動や、小説、児童文学、漫画の形で広く紹介し、これからの社会を考える一助としていく。

これまでで登場したのは「清原太兵衛」と「周藤弥兵衛」。ともに江戸時代、島根の地で水を害から人々を守るためにすべてをかけて尽力した人物で、「清原太兵衛」は周島町が合併四十周年記念事業として製作したもの。原作（小説）は一般公募され、遠く北海道からも問い合わせが来たという。

同研究所の所長木本武男部長（人間・自然・科学）研究所は「今の子どもたちにとって、松江市木本館町」が展開しているユニークな「二村一志運動」。これまでに、二人の「偉人」の伝記出版が実現している。

同研究所は地元企業、小松電機産業の小松昭夫社長が設立。現代社会の行き詰まりを打開するため、人と自然、科学の関係を一から見直すことをテーマに掲げている。

自分たちの町を、地に足着いた日々の営みを大切に思ふ中から、少しずつ地域が変わってきている。食品の安全や環境に対する組合員の関心を活動の基盤に、島根県生協、郷土の先人たちの足跡をさまざまな形で残し、次世代に伝える島根県の人々の試み。二十世紀へのカウントダウンが始まった。山陰各地で躍動感あふれる動きが続いている。



現代にふがえた「清原太兵衛」の物語。写真：澤田隆

(朝日新聞 H10.5.30)

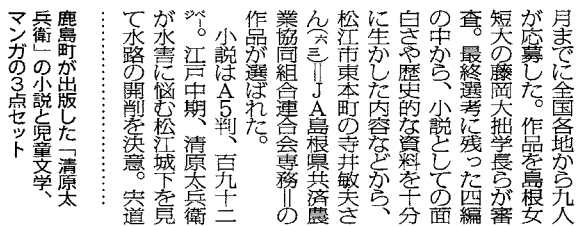
3冊セット
鹿島町が出版

郷土の偉人も
と知って

全戸に無料配布

湖北岸と日本海を結ぶ水路の開削工事に命を掛けたその業績が、だれにでも分かりやすく、読みごたえのあ

(山陰中央新報 H9.10.8)



鹿島町が出版した「清原太兵衛」の小説と児童文学、マンガの3点セット



佐陀川開削に活躍

郷土見つめる機会に

松江の書店
5週連続「ベスト10」

発行所は、県内の地元のめたとところ、徐々に人氣が店のレストラン調へによつて、十月三十七日に初めと話している。

夫道湖と日本海を結ぶ佐陀川開削に身をさげた清國社会主義の生涯を描いた伝記だが、地元の鹿島町や松江市で人気を呼んでいる。松江市内の書店の人気本ベスト10に十月から五週連続で名を連ねるなど、書屋関係者は「中年層を中心に関心を呼んでいる。郷土をあらためて見つめ直す」伝記と評価している。

て十位入りした後、十一月十日の五位を最高に五週連続でベストテン入りを記録した。

地元の偉人を取り上げた伝記の人氣に同店の佐藤安政店長は「中央までは名が通っていないが地域に貢献した先人は多く、そこにスポットを当てた類書はなかった。郷土の偉人に新たな発見があるのではないか」と話している。

々木武男本部長)。これまでに、江戸時代の大規模な河川改修に私財を投げ打ち、八雲村を洪水から守った周藤弥兵衛の伝記も出版している。

清原太兵衛は、江戸中期に宍道湖北岸と鹿島町側の日本海を結ぶ水路の開削工事に生涯を懸けた人物。町合併四十周年を迎えた鹿島町が懸賞募集した小説に加え、漫画、児童文学の三部作をそろえて出版した。

松江市などでは同社が書店を通じ十月から販売を始

郷土の偉人伝記として静かな人氣を呼んでいる「清原太兵衛」

(山陰中央新報 H9.12.4)



清原太兵衛ゆかりの佐太神社にて
(現地説明会)



読書感想文表彰式



シンポジウム・パネリスト



基調講演：
藤岡大拙 島根女子短大学長

◎清原太兵衛顕彰出版記念事業『記録集』より

はじめに

湖岸から望む宍道湖の夕景は、幻想的な雰囲気をつただよわせて、絵のように美しい。訪れる旅人たちは、出雲の国の原風景に出会い、思わず感嘆の声を発するのである。景色ばかりではない。宍道湖は「宍道湖七珍」でも知られるように、味覚の宝庫である。だが、今はおだやかに水をたたえる湖も、かつて寛永年間（江戸初期）の大洪水で、出雲の大河「斐伊川」が流れを変えてから氾濫を繰り返すようになり、沿岸の村や町を洪水の渦で巻き込んだ歴史をもっている。

車で松江温泉を西に湖岸線を走ると、やがて浜佐田の新茶屋前橋に差しかかる。北に真っ直ぐに伸びている川がある。すぐそれが人工のものであることがわかる。宍道湖から日本海（恵曇）に通じた「佐陀川」、「清原太兵衛」が心血を注いで開削したものである。この開削によって、積年の水禍を免れ、鹿島、松江をはじめ沿岸の諸地域の産業経済文化が発展してきた。しかし、この治績は、とかく忘れられ勝ちであった。

鹿島町は、平成8年に合併40周年の記念すべき年を迎えられ、記念事業として『清原太兵衛翁の高い志』を顕彰することによって、今後の発展の道筋を学び未来に生かすことを願って顕彰出版を企画された。

この企画にあたって、『郷土の人々の環境と生活のために生涯を捧げた偉大な先人にスポットを当て現代に甦らせ、その足跡をたどることで未来への道筋を発見する。』一村一志運動の提唱者小松昭夫氏が主宰するHNS（人間・自然・科学）研究所に委託され、漫画・児童文学・小説の3部作として出版された。

小室孝太郎氏（漫画）、村尾靖子氏（児童文学）の両作家に執筆が依頼された。また、小説は、懸賞小説として公募したところ、現地見学会など開催する中で、北は北海道、南は九州の各地から関心を寄せられた。応募作品の中から、寺井敏夫氏の作品が最優秀賞に輝き出版の運びになった。

その後、清原太兵衛顕彰会では、「清原太兵衛シンポジウム」を開催され、広く太兵衛翁の治績の顕彰と偉業の継承に努められた。その一環として小中学生の読書感想文を募集されたところ、339編の応募があり一部をここに収録した。

今、小中学生の問題がクローズアップされている。「さめている」「きれている」「表情がない」など、さまざまな言葉で指摘され、「心の教育」が叫ばれながら問題は深刻化している。しかし、この子供たちの感想文を読み、「素直に感動している子供たち、自分の夢をふくらませている子供たち、何をなすべきか模索する子供たち」に驚きと期待を抱かずにはいられない。大人が何をなすべきか問われている。

本書は、この一連の活動の記録集である。熟読いただき各地でこのような試みの輪が広がることを期待してやまない。

平成10年5月1日

清原太兵衛顕彰事業、懸賞小説審査委員長

藤岡大拙（島根県立女子短期大学学長）

清原太兵衛顕彰会が鹿島町内の小学生、中学生を対象に清原太兵衛の本を読んだ後での読書感想文を募集したところ、339編の応募がありました。

審査の結果、最優秀賞に3名（小学校低学年の部・高学年の部・中学生の部各1名）が入賞。ここに最優秀賞の感想文を掲載いたします。

□「清原太兵衛」を読んで

東小学校3年 木村愛実

わたしが清原太兵衛という人を知ったのは、鹿島町の社会科の副読本を読んだ時でした。

はじめは、川を作った人であるということだけしかわかりませんでした。でも、この本を読んでではじめていろいろなことを知りました。

佐陀川は、雨がふったときは水がにごり、水かさがふえ流れがはやくなり、流されていきそうです。わたしがいつも見ているそんな佐陀川が、人の手で作られたなんて、ふしぎでした。川はしぜんにできたものだ、と思っていたからです。それが、何百年もむかしに、人の力で作られたなんて信じられません。

今のように、大がたダンプカーやクレーン車のない時代に、人の力だけでできるなんてすごいと思います。

わたしが一番心にのこったのは、自分の体のことよりも、人のことを心配して、川を作りたいと太兵衛さんが思ったところです。思いやりがある人だったんだなあと思いました。

それに、小さいころからのゆめを、あきらめないなんて、すごいと思いました。今、わたしにも、ゆめがありますが、大人になってもそのゆめをもっていられるか、自しんがありません。

太兵衛さんが工事をはじめられたのは、74才になってからだそうです。いやなことがあってもくじけずに、小さいときからずっと考えていたことを実行したのです。

何度も何度も反対する村の人たちに、せっかくうったくいをぬかれて、大へんだったんだろうなあと思います。太兵衛さんはくいをぬかれないようにするために、頭をつかい、村の人たちがねむっているあいだに、くいうちは終わったそうです。わたしは、太兵衛さんはいつねむったのかなと思いました。

川ぞこをほるさぎょうは、頭の中で考えていたこととは大ちがいで、かなりむずかしそうでした。

太兵衛さんは、朝のまだうすぐらいころから江角の海岸へ行って、つめたい海の中に入り、体を清めたそうです。つめたくて、こごえ死にそうだったことでしょう。太兵衛さんは、じっとだまって入ったそうです。わたしは、つらい思いを何度もしたんだなあと思いました。

1787年の秋の終わりごろに、佐陀川はかんせいしました。よろこんでいる人々の声が聞こえるようで、わたしもうれしくなりました。

わたしは、太兵衛さんの本を読んで、いろいろなことを知りました。その知ったことは、今では考えられないことばかりでした。

友達のうちに遊びに行くときにいつも見る佐陀川は、よくごみがういています。

この佐陀川はたくさんの人の力と苦勞のおかげで作られたことを思い、わたしたちは、この川をよごさないように、川を大切にしていかなければならないと思います。

□ありがとう！清原太兵衛さん

恵曇小学校4年 坂本優希

私が住んでいる町は、太兵衛さんが作ってくれた佐陀川の近くの古浦です。川には、みなと橋がかかり、古浦と恵曇の町を結んでいます。私たちが松江に用がある時は、佐陀川をながめながら横の道を通って行きます。

4年生になって、社会科で太兵衛さんの事を習いました。いつも見ていた佐陀川が太兵衛さんの作った川だと知ってビックリしました。あんなに長くて大きい川がどうしてできたのか、知りたくなりました。本を読んだり、佐陀川見学にも行きました。太兵衛橋や太兵衛きねんひなどいろいろなものを見ました。そして、私は、太兵衛さんてすごい人だったんだなぁと思いました。

昔、穴道湖の水が大雨がふるたびにあふれ、大きなひがいが出ているのを見て、「ぼくがこう水をなくしてやる。」

と、小さいのに国を救おう!!と考えるなんて私にはそうぞうがつきません。私だったら、こんなこう水とかがあっても人がするからいいや、と思うにちがいありません。でも太兵衛さんはちがいました。どうしたらこう水がなくなるかずっと考えて、何回も工事願書を出して、12回目でやっと願いがかなったのです。一度思った事は、かなうまであきらめない太兵衛さんの気持ち、私もそんな強い心がほしいです。

工事がはじまって、うなだと、かたの内のところはどしゃがくずれて、作業をしていた人たちがどろにのまれてたくさんなくなりました。

その時も太兵衛さんはあきらめず、お百度まいりをして工事がぶじに終わるように祈りました。佐太神社のたたりだと言われても、まけないでがんばった太兵衛さんって、本当にすばらしいと思います。

太兵衛さんのことを知るまで、私は、佐陀川をただなんとなく、見ていました。でも太兵衛さんや工事をいっしょうけんめいにした人たちについて勉強をして、今までとはちがう川のように見えてきました。いろんな人のくろうを合わせてできた川、佐陀川。私たちのくらしを便利でゆたかにしてくれる川です。

私も、太兵衛さんのように、次の時代によろこばれる何かをしたいと思います。その何かはまだ分からないけど、たくさんの勉強をしたり、いろんなことにちょうせんして、みつけていきたいと思います。

ありがとう清原太兵衛さん。

そしてずっと私たちを見守っていて下さい。

□清原太兵衛について

鹿島中学校3年 安達洋子

私はあまり佐陀川に縁がなく、家も近くないし、学校の登下校の道も川の近くを通りません。だから、この川を見るのは学校の音楽室と、松江市内へ行く時だけです。

私は、その音楽室から見える景色がとても好きです。そこからは、校庭に立ち並

ぶ桜の木と、その背後にどっしりとかまえた佐陀川が見えます。この川を高い所から見下ろすととても大きく、とても広く見え、とても穏やかな気持ちになります。

春は桜が咲き匂い、花卉は川の方へと散っていきます。佐陀川は、花卉だけではなく、桜そのものを飲み込んでしまうような、そんな迫力さえ感じさせます。そういう風を感じるのは、やはり、清原太兵衛と、太兵衛の率いた作業者達の川への強い思いがあったからだと思います。

この佐陀川をつくった、清原太兵衛という人の名前は、小さい頃から学校や家で何度も聞かされていて知ってはいましたが、太兵衛の生涯については何一つ知りませんでした。興味すらわかず、ずっとこのまま名前だけのおじいさんで終わるところでした。

しかし、今は違います。太兵衛の夢や人生、考えを知ってから、私にとって憧れの人のような存在になりました。

太兵衛には、幼少の頃から夢がありました。洪水から村を守ることです。太兵衛の住んでいた村は、毎年暴風雨に襲われ、嵐の過ぎ去った後はひどいものだったそうです。いたるところに転がっている家畜の死がい。鼻をつくにおい。病に倒れる人。大きなどろ水の川となってしまった村。そんな時倒れた父。太兵衛の目に映るのは、暗く悲しいことばかりでした。

だから、もう二度とそんな風景を見なくてすむように、という思いがこの夢にはあると思います。そして、この夢を決して忘れることなく、寝る間も惜しんでひたすらその一つの夢を追いかけていた太兵衛の姿勢を知り、自分も夢をあきらめたらいけないなと思いました。どんなに無理だと思うことでも、その夢のために毎日こつこつとがんばれば、いつか、清原太兵衛のようにおじいさんになってからでも、きっとかなうんだというような気持ちになりました。

もちろんその夢をかなえるためには、いろいろと苦しんだりする時期もあると思います。太兵衛も、付近の住民の抵抗や土質の悪さ等多くの問題にぶちあたり、何度も克服して、そして川をつくりました。時には、一緒に戦った作業者の命を失うこともありました。それでも夢をあきらめなかったこと、そういう人が、かつてここに存在したということが、私にはとてもはげみになります。

私には、まだ年齢的にも若いということもありますが、ただ一つの何かのために、苦しんだり泣いたり、危ない橋を渡ろうと思ったこともありません。それに、これからの人生で、自分を捨てて必死になるということが無いというのも嫌です。間近で見ても、テレビで見ても、何かのために必死になっている人は、とても素敵だと思います。そして、必死になった分だけ、その分だけ結果を残しています。清原太兵衛は、とても長くて大きな川を残しました。それは今になっても多くの人達に使われ、役立っています。

清原太兵衛がいたから、今この町で米が作られ、清原太兵衛がいたから、今水害で悩むこともありません。もしいなかったら。そう考えると、この人は私達の恩人です。

今、私には夢があります。その夢はまだまだ遠くて、細かいところでいろいろと迷っています。でも、清原太兵衛のように、あせらず、ゆっくりと考えていこうと思います。

3. ゼロエミッション・小規模理想郷 (中海・宍道湖圏域の新構想)

趣 旨

ますます深刻化しつつある環境問題、食糧問題、エネルギー問題の解決の糸口を見出すためのプロジェクトです。

廃棄物を出さないゼロエミッションに基き、自然循環の中で文化的な社会生活が十分に自立・存続しうることを証明するテストケースとし、自然と共存した21世紀の社会システムモデルを、国境を越えて提案。

干陸予定地の中海・本庄工区をはじめ中海・宍道湖圏域において、先駆的「インテリジェントバイオ（情報微生物工学）技術」と、出雲の地政学・歴史文化との融合をめざす実験場を創出。「ゼロエミッション・小規模理想郷」の出現と、新たな「環境観光産業」の創出を促します。

このプロジェクトの議論・研究・構想・調査・広報・企画・設計・建設・運営という流れの中で、共感の輪が広がり、21世紀を担う人物づくりとネットワークが広まるものと確信します。

また、食糧危機が懸念される21世紀、このプロセスを世界に情報発信し続けることで、日本の信頼回復と、平和・友好に重要な役割を果たすことが期待できます。

概 要

第 1 ス テ ッ プ

このプロジェクトの実質的第1歩として、回分式活性汚泥方式とコンピュータ制御による「パッケージ水神」の技術を活用した「農業集落排水事業松江市長江地区浄化センター」が完成いたしました。

中海・宍道湖はヤマトシジミの全国生産高の70%を占め、「宍道湖七珍」など多くの水産資源に恵まれています。しかし、中海のアカガイの死滅、宍道湖のヤマトシジミの大量死などが示すように「水質悪化」が深刻化、水質改善は緊急・

最重要テーマです。

下水処理プラントは、日本下水道事業団（建設省所管）、全国土地改良事業団体連合会、日本農業集落排水協会（農水省所管）などの所轄官庁外郭団体と業界団体との癒着システムにより、技術開発がなおざりにされ、性能が低く、外観だけ華美で、建設費、運転・管理費とも極端に高いプラントがつくられ続けています。これが、施設が普及しても中海・穴道湖の水質の浄化が進まず、下水道料金が高い理由のひとつであると推察されます。

「農業集落排水事業長江地区浄化センター」はこのような背景のもと、地元研究開発型ベンチャー企業として5年にわたる極限的アプローチの結果、松江市宮岡寿雄市長のご勇断により、ゼネコンと地元研究開発型ベンチャー企業との島根県初のジョイント方式で発注いただきました。

松江土建(株)の建築土木技術と、小松電機産業(株)の微生物情報処理技術（岸博先生指導）を組み込んだ「パッケージ水神」、そして小松電機産業(株)と菱農エンジニアリング(株)の機械装置設計技術、曾田鐵工(有)の製缶技術を結集、平成11年3月、竣工に至りました。

これにより、環境機械装置産業と環境情報産業という新産業を創出するための新しい流れの第1歩を踏み出すことができました。これを契機に、世界に通用する技術開発が進み、新しい時代を担う企業群が輩出されることを願うものです。

なお、「パッケージ水神」は、平成7年（1995）、科学技術庁第54回注目発明選定証を受証した技術を活用したシステムで、松江市のほか島根県内木次町、掛合町、佐田町、三刀屋町、仁多町、鳥取県江府町で採用されています。

このたび竣工した施設は、処理人口1,260人、日平均340m³の生活廃水を処理します。処理方式は、1つの槽（回分槽）の中で流入、攪拌、ばっ気攪拌、沈殿、上澄水排出、汚泥引抜きを行い、微生物の働きにより、流入汚水の処理を行う方式で、次のような特徴があります。

- ①本施設の中核「パッケージ水神」は計測・自動制御・監視機能が一体化したシステムになっており、公衆回線に接続するだけで機能します。盤面にスイッチ・計器類がなく、タッチパネルによる対話方式で、初心者でも簡単に操作でき、ソフトのバージョンアップによる高品質の維持と、量産が可能です。
- ②本施設では効率的攪拌を「逆円錐台形槽」により実現、また電子計測自動制御

情報処理により高度処理（脱窒素）と省エネを両立。

- ③同質の生活リズムの農業集落排水では避けられない、極端な流入水量変動に対しても、安定して省エネ・脱窒素運転を維持できます。
- ④情報処理装置により蓄積されたデータは、機器運転管理、水量・水質管理、機器異常時・施設故障時の原因特定、保守点検時期の特定等を容易にします。将来、量産化をめざした見直しと合理化が進めば、飛躍的なランニングコスト低減につながり、発展途上国への爆発的普及が見込まれます。
- ⑤施設での機器運転と、水質の因果関係を解析、データが蓄積されることにより進化するシステムであり、水管理技術者を育成するプログラムとして類例のない現場の生きた教材を提供します。
- ⑥公衆回線を使用して、学校やコミュニティセンター等で臨場感あふれる処理場の状況を大型スクリーンで映写、環境教育に新しい手法を提供することになります。

矢道湖の水質改善進まず

COD、窒素、リン横ばい

汚濁防止
対策協会で報告

矢道湖周辺の自治体や議員でつくる第六回矢道湖水質汚濁防止対策協議会（浅野俊雄会長、二十五人）がこのほど、松江市内のホテルであり、十年度の矢道湖の水質測定結果が鳥根県から報告された。化学的酸素要求量（COD）、窒素、リンの三項目とも横ばいで、県が湖沼法に基づいて設定している矢道湖水質保全計画の目標値をいずれも上回り、水質改善が進んでいないことが明らかになった。

調査は、建設省出雲工事事務所と県衛生公害研究所が、毎月一回、矢道湖と大橋川の五カ所で実施。CODは、月別で四番目に悪い値（七五〇値）を使って年ごとの推移を比較。窒素、リンは年平均値で比較している。

報告によると、CODは一昨年より五・一一五・四ミリで、各調査地点とも前年より〇・三〇・七ミリ上昇し、水質が悪化。窒素は同〇・四四・〇・四八ミリ、リンは同〇・〇五・〇・〇六五ミリで、ほぼ横ばいだった。

県は五年から十年までの五年間で達成する水質保全の目標値としてCODで同四・一ミリ、窒素〇・四四ミリ、リン〇・〇四ミリを設定している。

最終年度で目標を達成しなかったことについて、県衛生公害研究所の石飛裕水質科長は「下水道整備などで流入する窒素やリンなどは削減されているが、水質の改善にまでは至っていない」と分析した。

報告を受けた同協議会は本年度、下水道整備の予算枠の拡大など国に要望することを決めた。県は本年度新たな水質保全計画の策定に取り組む。

（山陰中央新報 H11.6.1）

し尿・雑排水処理施設
さらにグレードアップ

自動制御と監視機能一体化

「パッケージ水神」を発表

小松電気産業が開発



小松電気産業株式会社（本社・東京都八雲村）小松昭夫社長は二十日、自動制御と監視機能を一体化したし尿・雑排水処理システム「パッケージ水神」を新しく開発したと発表した。昨年十月に発表した「NEW水神」を改良したもので、今までオーダーメイドで作っていた製品をイージョーダー化、タッチパネルを使用することによる操作性の飛躍的な向上がポイント。

同社では一九九二年、N.T.T.の公衆電話回線とコンピュータを使用した上下水処理システム「やくも水神」を発表。従来、コストや管理の問題から設置が困難とされていた農山村の下水処理の低コスト化、イージョーメンテナンスを可能にした。さらに、昨年は機種種を改良した「NEWやくも水神」を発表。佐田町反

辺集落排水集落排水処理場に第一号機を設置し運転を始めた結果、放流水中のCOD（化学的酸素要求量）を再利用可能水準まで引き下げることに成功。さらに、窒素濃度も従来機種の十分の一から十五分の一まで低減した。

この日発表された「パッケージ水神」は、今まで別々のシステムで構成されていた計測制御と監視機能を一体化。計測・自動制御・監視が一つになり、公衆回線につなぐだけでシステムとして機能。一ホストから、十か所の処理場・四百五十か所の中継ポンプを管理することが可能。また、

従来機にあったスイッチ・メーターなどのハードウェア部を全てソフトウェア化し、タッチパネルでの操作を可能にした。また、誤った設定に対してのチェック機能が充実し、操作ミスの危険性を大幅に軽減。盤面から計器・スイッチがなくなり、感電事故の心配がなくなったことが大きな特徴。

従来機のやくも水神は県内の十市町に三十二カ所、鳥取・兵庫の各町に十九カ所、また昨年発表されたNEWやくも水神は鳥根・鳥取阿保七カ所に設置されている。パッケージ水神もすでに大原郡木次町に納入され、来年度から稼働すること。飯石郡掛合町でも来月納入を予定している。

パッケージ水神は、プラント建設がオーダーメイドからイージョーダーメイド方式をとったことなどから、NEWやくも水神の自動制御方式（四千万円）に比べ、同方式で三千二百万円となり大幅なコストダウンに成功した。

（島根日日新聞 H7.11.21）

排水処理をシステム化

小松電気産業 機能追加 変更簡単に

制御機器製造の小松電気産業（島根県八雲村、小松昭夫社長）

は、計測制御と監視機能を一体化した排水処理システム「パッケージ水神」を開発した。制御部分をソフトウェア化し、標準化することによって設置後の機能追加や変更に対応できる。操作の安全性も高いという。

集落排水処理向けに売り込む。従来、水処理施設の維持管理は専門家の経験に頼ってきたが、新システムでは、コンピュータに履歴を残すことにより、処理プロセスの実績と評価が可能になった。様々な処理パターンを検討し、現場に最適な方法を採用することで高いレベルの目標を達成できるとしている。

また、制御部分のソフトウェアを進めた。処理場ごとに機械の種類が異なるため注文生産がほとんどだったが、新システムでは標準機能のデータを変更することで、導入後の仕様変更にも簡単に対応。本体前面の液晶入力装置で動作条件などを設定しながら、運転状態や計測値を画面で確認できるため、設定ミスの可能性が小さい。さらに、制御盤内の機械を操作する必要がないため感電事故の心配もなくなるという。

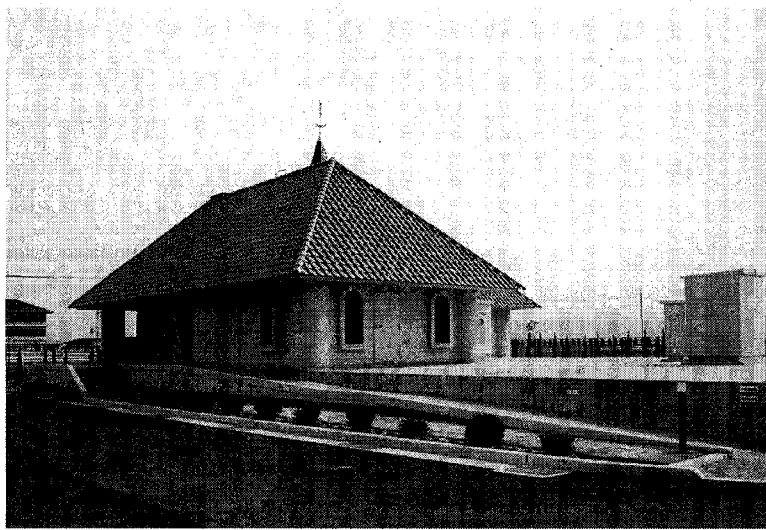
最大十五カ所の処理施設と四百五十カ所の中継ポンプ場の監視が可能。処理対象人口が五百人のタイプでは、電気工事などを含め二千三百四十万円。自動制御方式を採用した千八百人のタイプは同六千九百五十万円。

（日本経済新聞 H7.11.21）

松江の小松電機産業など3社

農業集落排水用

プラント開発



共同開発した装置が採用された松江市長江地区浄化センター処理場＝松江市打出町

長江の排水事業で稼働

電子制御機器メーカーの小松電機産業（松江市乃木福富町、小松昭夫社長）はこのほど、菱農エンジニアリング（島根県東出雲町、貫井三郎社長）など二社と共同で、農業集落排水用プラントを開発した。プラントは、松江市長江町の排水事業に採用され、四月から稼働している。

電話回線で遠隔地操作

処理パターン蓄積も

共同開発したのは、小松電機産業、菱農エンジニアリングと曾田鉄工（島根県東出雲町、曾田礼蔵社長）の三社。

プラントは、七年に小松が開発した集落排水遠方監視自動制御システム「パッケージ水神」と、菱農と曾田の二社が開発した「新型上澄水排出装置」を組み合わせた。パッケージ水神は、排水処理装置の

共同開発したのは、小松電機産業、菱農エンジニアリングと曾田鉄工（島根県東出雲町、曾田礼蔵社長）の三社。

計測、自動制御、監視の機能を一体化させたもので、電話回線などを使って遠隔地にいながら、装置の操作や制御ができる。コンピュータ制御のため、操作履歴を残しておいて、処理パターンの蓄積や評価ができる。誤った設定に対して、重複したチェック機構が作動し、設定ミスを少なくする。

新型上澄水排出装置は、菱農が設計し、曾田が製造を担当した。タンク中の排水が含んだ混合物を沈殿させ、上澄み部分の水を抽出する仕組みで、処理水の放流や、沈殿した汚泥の排出をより効率的に行えるようにした。

プラントの処理方式は「回分式活性汚泥法」。同方式は一つの反応槽の中で、汚水の流入、ばっ気、かくはん、混合、沈

殿、上澄水の排出、汚泥の引き抜きなどの処理を時系列的に進行させる。このため、一定プログラムに基づいた運転制御が必要で、その役割をパッケージ水神が担う。

プラントは、農業集落排水事業長江地区事業に採用され、松江市打出町の処理場内に設置された。水質はBOD（生物化学的酸素要求量）が一リタリ二百ミリリットルから二十ミリリットルに、SS（汚濁物質）が二百ミリリットルから五十ミリリットルに減少する。また、T-N（全窒素量）も四十三ミリリットルから十五ミリリットルに低減されるという。

小松社長は「業務内容の異なる企業が共同で事業を請け負い、それぞれのノウハウを共有することで、環境機械装置と環境情報産業という新分野を目指したかった」と話している。

（山陰中央新報 H11.4.24）

農村部の下水施設設計

農水省関連法人が独占

国の補助事業

農村部の下水道普及を目的に国の補助で行われる「農業集落排水事業」の処理施設認定をめぐる、農水省が同省OBの天下り先になっている社団法人を申請窓口に指定したため、この法人が関連業務の受注をほぼ独占していることが7日分かった。窓口の指定

は2年前に廃止されたが、独占状態は変わらず、この法人は手数料や指導料で1997年度に21億円以上の事業収入を上げている。農水省OBらによる公益法人が同省の後押しで巨額の利益を得ている構図が浮かん

だ。この社団法人は「日本農業集落排水協会（東京都港区。現在、17人の理事のうち谷山重孝理事長をはじめ6人が農水省OBで、一般職員も計72人のうち同省からの出向者とOBがそれぞれ約1割を占めている。農業集落排水事業は、事業を計画する市町村が都道府県を通じて農水省に申

請。補助を認められた市町村は汚水処理施設の設置計画（基本設計）と、処理能力や処理方式などを定めた実施設計の両方を作成する必要がある。浄化槽法などで、実施設計については建設相の認定を得ることが義務づけられている。農水省は事業が始まる前

農業集落排水事業

ことば

下水道普及の遅れた農村部に小型の生活廃水処理施設を建設することを目的に、1983年から実施されている。河川の汚染を防止する目的もある。

.....

り、総事業費の50％が国の補助で、99年度は約1356億円が国費として計上されている。農水省は2006年度までに全国3万5000集落に普及させる計画を進めている。

年の1982年に建設省と覚書を取り交わし、その中で農水省が指定する団体がこの認定を申請する窓口になることを明記。翌83年に日本農業集落排水協会の設立を認可し、窓口にした。各自治体は設置計画や実施設計を外部に任せているが、同協会が設置計画の作成も業務にし、現在建設中のものも含めて、これまで

に全国の処理施設設計約3500カ所のうち、85％に当たる約3000カ所の設置計画を受注している。認定申請を行う協会に発注すれば、有利と考える自治体が多く、独占につながったとみられる。自治体関係者は「補助金の交付を受ける以上、協会以外には頼みにくい」と話している。両省の覚書について、全

国知事会や全国市長会などから「特定の公益法人の仕事を保証するためではないか」と批判が出たため、農水省は97年2月に覚書を廃止したが、処理施設メーカーの関係者は「協会が独占する実態はいまも変わっていない」と証言している。農水省は覚書の廃止以降、協会の受注割合は低くなっており、独占ではない。どこに発注するかは自治体が判断すること」と話している。

日本農業集落排水協会の話 自治体からの委託割合が高いのは、技術と実績を評価されたことで、独占には当たらない。

第 2 ステップ

既存の農業集落排水処理施設を、「複合微生物動態系解析における複合発酵（E M B C 情報微生物工学）」を駆使した、汚泥のまったく出ない「エネルギー触媒水製造プラント」に改造。その近隣で、処理水（エネルギー触媒水）を活用した無農薬・無肥料・無餌の「インテリジェントバイオ農場・養魚場」の実験に着手。

●複合微生物動態系解析における複合発酵

（E M B C = Effective Micro-organisms Brewing Cycle = 情報微生物工学）とは？

汚泥の出ない画期的なシステム

- ①「高嶋開発工学総合研究所」が開発した浄化システム。
- ②バイオテクノロジーを応用して、有効微生物群を共存・共栄・共生させ、発酵合成・複合発酵させることにより、排水中の有害物質を水・炭素・ガスに分解する、つまり原子を消失させ、汚泥をまったく出さない画期的な技術であり、従来とは比較にならない上質の水を再生することが可能。
- ③さらに、この水を同研究所独自開発の「アモルファスマテリアル浄水機」でろ過することにより、水道水より上質な水に再生できるという驚異的な浄化システム。
- ④有害な薬品などは一切使用しない、自然界の発酵微生物によるまったく新しいこの浄化システムにより、廃棄物やスラッジの消失、ローコストの排水処理、リサイクルによる水資源の確保などが可能となります。

●「複合微生物動態系解析における複合発酵」の概念

◇微生物には「好気性－明」「好気性－暗」「嫌気性－明」「嫌気性－暗」の4つのタイプがある。従来の排水処理法は「好気性－明」菌による「発酵－分解－腐敗－分裂」のステップにより処理されるもので、酸化という有害作用をもたらしてきた。たとえば、悪臭、汚泥の堆積、処理質の低下など。

◇複合微生物動態系解析における複合発酵（E M B C 情報微生物工学）は、微生物の持つ機能と基質および情報を利用し、情報微生物工学として用い、発酵法、増殖法および誘導法を駆使することによって、これまで不可能とされてきた4つのタイ

プの微生物を共存・共栄・共生させることに成功。

◇EMBC工法でとくにベースになるのが「嫌気性一暗」菌。これと光合成微生物とは互いのチャンネルに融合作用を起こさせ、共存・共栄・共生の源となっている。

◇微生物の共存・共栄・共生により、「発酵—分解—合成—発酵」というサイクルが生まれ、還元という有効作用をもたらす。たとえば悪臭やスラッジの消失、処理水質の真水化など。

◇共存・共栄・共生の状態を継続して、生菌数を飛躍的に高め、微生物の高度化による微生物融合と、微生物酵素の高濃度化による酵素結合結晶を生じさせることによって、すべての微生物を有効作用に導くことができる。このことを「複合発酵法」という。

※本稿は高嶋康豪博士著『蘇生・回帰の科学—エントロピーをエコロジーに—』『EMBC情報微生物工学』に基き作成。また、「バイオステーション構想」は高嶋開発工学総合研究所より原案、資料をご提供いただき、高嶋康豪博士はじめスタッフの皆様のご協力を得て作成しました。（詳細は資料編参照）

第 3 ス テ ッ プ

「宍道湖東部浄化センター」で発生した汚泥を「エネルギー触媒水製造プラント」に導き、「エネルギー触媒水」を製造。

農水省および歴代の知事、関係者の長年のご努力によって完成した「中海干拓揖屋地区」（約203ha）において、「エネルギー触媒水」を活用した無農薬・無肥料の「バイオステーション」の実験を開始。

現在、その実証試験場用地として揖屋地区内5.3haの農地を取得すべく、島根県と交渉を進めています。

また、意宇川河口に「エネルギー触媒水」を放流することにより、魚の集まり具合と発育状態を調査。

これらにより「バイオステーション」を中海干拓安来地区および弓ヶ浜地区に広げ、中海・宍道湖圏「ドリームマリンランド」実現の可能性を探ります。

費用とエネルギーを消費するだけの従来の排水処理施設を、驚異的な価値を生み出す施設へと180度転換するコペルニクスの発想によって構想されたプロジェクトです。

「宍道湖東部浄化センター」のデータ（平成9年度末時点）

処 理 量	約31,000m ³ ／日，約940万m ³ ／年
処 理 能 力	45,000m ³ ／日
計 画 水 量	142,790m ³ ／日
汚 泥 排 出 量	1,500m ³ ／年 (脱水ケーキ，70%焼却)
運 転 管 理 費	6 億 4,000 万円 (市町村からの委託費用約9 億円，建築費別)
人 員	県職員9 名，維持管理業者 53 名
敷 地 面 積	18.8ha

◎構想の背景

①中海・宍道湖圏は、出雲・米子の両空港から近いなど交通至便の地。古来「緑むすびの国」として栄えてきた経緯もあり、多くの歴史的遺産と自然環境に恵ま

れ、観光資源、水産資源が豊かです。しかし戦後、周辺の都市化・工業化にともなう生活様式の急激な変化、中海干拓事業、東部浄化センターの建設等により急速に水質が悪化。中海ではアカガイが死滅、宍道湖ではヤマトシジミ（全国出荷量の70%）の大量死が発生しています。

②世界的な環境保護の趨勢から、水処理施設から発生する汚泥の海洋投棄や焼却は、1999年以降全面禁止となります。国は高温の溶融炉での汚泥処理を推奨していますが、炭酸ガスの排出、ダイオキシンの残留などの問題に加え、1基150億円というコストの問題もあって、出口のない状態になっています。

③中海の水質悪化・汚泥堆積の主要原因は窒素・リンの流入。水処理施設で水を浄化しても、中海圏の土壌は火山灰質で水はけがよく、中海周辺の農地に撒かれた窒素・リンも分解されないまま中海に流入、水質悪化が進んでいます。現在の浄化システムの導入が進んでも、一方に干拓地での化学肥料農法が存在するかぎり、本質的な解決はありません。

④「宍道湖東部浄化センター」は「中海干拓揖屋地区」と隣接、意宇川の河口に位置しています。

「宍道湖東部浄化センター」に「エネルギー触媒水製造プラント」を設置、排水中の有害物質を資源とし、「エネルギー触媒水」を製造。揖屋地区の農業用水として活用すれば、化学肥料は不要となり、窒素・リンの中海への流出もなくなり、自然で安全な農作物の生産が可能になります。

また、エネルギー触媒水を意宇川に放流すれば、中海の水質も飛躍的に向上すると同時に、中海の藻・魚・貝類にも画期的なエネルギーを供給することになり、意宇川河口での魚の効率的捕獲も夢ではなく、1石何鳥もの効果が期待できます。

⑤出雲地方には、長年の地道な努力により高度な有機農法技術と経営ノウハウが蓄積され、それを担う人材も育成されています。

その代表例として、木次乳業㈱、㈱風土プラン、㈱井上醤油店の3社が結集、島根県大原郡木次町に5haの土地を確保、自然に生かされる中から安全な食材の生産とその啓蒙普及活動を行う場「食の杜」の建設が進んでいます。1.5haの有機ぶどう農場を中心にワイン工場、食品加工工房、宿泊・交流施設を備え、1999年7月竣工予定で、まもなく「緑の中のユートピアモデル」が誕生します。



第 4 ス テ ッ プ

干陸予定地の中海・本庄工区1400haを含めて中海・宍道湖圏を、E M B C 技術の活用により、「ドリームマリンランド」として再構築。

近海漁業の鉄鋼廃船を、バイオテクノロジーと太陽光技術を活用した「エネルギー触媒水製造プラント船」に改造。

湖底に堆積した汚泥を莫大な費用をかけ浚渫・投棄するという従来の発想を脱し、富栄養水、堆積した汚泥をこの船に汲み上げ、爆発的生命連鎖を促す「エネルギー触媒水」に変え、湖に戻します。

水門と建設された後一度も使用されていない排水ポンプを活用、塩分濃度を調節。これらにより、魚・貝・藻類の飛躍的増殖が期待でき、広く市民に公開することにより、失業・将来の食糧不安への備えともなります。

蘇生技術の研究開発を進めるなかで、中海・宍道湖を「豊穡の海」に再生、あらゆる既得権益から開放されたユートピアにすることも夢ではありません。

このプロジェクト実現のための議論・研究開発がスタートすれば、松江市長はじめ関係者のご尽力により整備が進められている国際文化観光都市松江、および出雲大社・玉造温泉等既存の観光地とあいまって、出雲―松江―米子間の広域的な活性化が促進されます。

この技術の研究開発が進み、世界とりわけ緊張状態が続く北東アジアに広まれば、恒久平和実現に向けての第一歩にもつながります。

宍道湖・中海の諸元

	単 位	宍道湖	中 海
水 面 積	km ²	80.3	96.9
水 容 量	億m ³	3.66	5.21
平 均 水 深	m	4.5	5.4
最 大 水 深	m	6.4	8.4
滞 留 時 間	年	0.3	0.4
流 域 面 積	km ²	1,288.3	595.2
流 域 人 口	千人	271.8	158.8
流 域 市 町 村		3市12町1村	4市5町1村

◇海・島・山の中で暮らす理想住空間

出雲・米子両空港に近接した交通至便の中海周辺部（干陸後に承水路に予定されている区域を中心）に、海・山・島に囲まれた理想的な水辺の住空間を創出。

自分の投資（寄付）した資金、提供した技術・労働によって建設の進む「地球ユートピアモデル地区」の中で、マリーナと菜園が付帯した住宅に住み、目の前のドリームマリンランドで取れた新鮮で安全な食材を食べ、風力・太陽などクリーンエネルギーを用い、自然循環の中で廃棄物ゼロの地域を創造。

◇中海・宍道湖圏域観光風力発電施設

中海・宍道湖圏域に風力発電施設を建設。

その風力発電施設から、中国電力鹿島原子力発電所、原発資料館を巡る「エネルギーとエコロジーを考える島根半島ツアー」やシンポジウムを企画。観光を通じて、エコロジーへの意識変化を促します。

第1号風力発電施設として、中海干拓揖屋地区のバイオフィーム実証試験場付近に、「ウィンドファーム」建設も考えられます。

◇人生を考える石碑公園

「太陽の國出雲」構想のために、知識・知恵・技術・土地・資金等をご提供いただいた方々の石碑を建立し、枕木山・自然遊歩道沿いに石碑公園を建設。

石碑には、ご本人の生い立ちから寄付されるに至った来歴までを刻み、子供から大人まで、人間の生き方について学ぶ「人生を考える石碑公園」に。

このプロジェクトは不況下、バブル期に世界から集めた名石の在庫に悩む石材業界の支援にもつながります。

◇癒しと出会い、失業時代にお金のいただける観光農園

観光客に農作物の収穫作業をしていただき、収穫量に応じてお金をお支払いする、大失業時代に歓迎される「観光農園」。

◇次の時代をつくる高齢者のための ハイクオリティ高層マンション

中海・宍道湖周辺にある松江赤十字病院、松江市立病院、島根県立中央病院（出雲市）、鳥取大学医学部付属病院（米子市）の4大病院の隣接地に、見識が高く、豊富な知識をお持ちの高齢者の方々にお住まいいただく高層マンションを建設。

デンマークのケア思想である「人生の継続性の尊重」「残存能力・潜在能力の活用」を基本に、病院と連携しての健康管理、病気治療、介護・介助などの健康・医療サービスのほか、日常生活全般にわたる手厚い支援サービスを提供。

そして、当施設を生活拠点とし、長年培ってこられたノウハウを次世代に伝授。元気なうちは研究・教育施設にお出かけいただき、移動が不自由になった場合は、当マンション内において指導。

こうして、晩年はあらゆる人が教育者として人生をまっとうできることが人間として自然な生き方（死に方）であり、ある人物の晩年のありようが次の時代を担う人物の創出に大きな影響を与えた例は歴史上、枚挙にいとまがありません。教育の根源的なポイントはこのあたりにあるのではないのでしょうか。

◇人生を考える空間

人生を考える場所として、近在寺院（華蔵寺）の修復整備を提案。

また、キリスト教史上2回目の1000年祭を迎える記念事業として、教会の誘致も考えられます。

グリーンな風

独仏の原発はいま

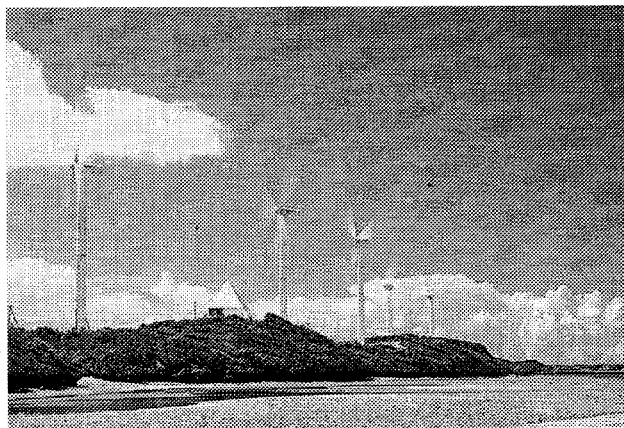
▽④△

原発の運転を徐々にやめる「脱原発」の方向で政府と産業界が合意したドイツ。背景を探るうちに、ここ数年で風力発電が急速に伸び、世界一の規模になっていることが分かった。最大時の発電量は、すでに原発3基分に達している。非政府組織（NGO）のドイツ風力エネルギー協会のワグナー代表によると、現政権は2010年までに風力や太陽光など自然エネルギーだけで電力消費の10%を賄う目標を掲げている。ドイツの全原発（19基）の約6基分に相当する量だ。原発取材のため、ドイツ西部のアウトバーン（高速道路）を車で走っていて、3基の風力発電を見掛けた。近くまで寄ってみた。

小高い丘の上に高さ50メートルの塔がそびえ、頂上でプロペラ状の風車がシュツ、シュツと小気味よい音をたてて回っていた。その後もアウトバーンや列車で同様の風車を何度も目にした。調べてみて驚いた。ドイツでは1998年末までに風力発電機が5000基以上設置され、最大発電能力は287万キロワットに達していた。国民の目には日常的な景色、現実的なエネルギー源と映っているのだ。

風力発電は、文字通り風まかせで、最大出力が常に出るわけではない。だが、地球温暖化の原因となる二酸化炭素は出さないし、原

進む自然エネルギー開発



国内では積極的に研究導入を進めている沖縄電力・宮古島の風力発電機。一部はデンマーク製＝沖縄電力提供

多様化へ法と予算で援助

発のような事故のリスクや数十万円の隔離が必要な核廃棄物の問題もないという利点がある。

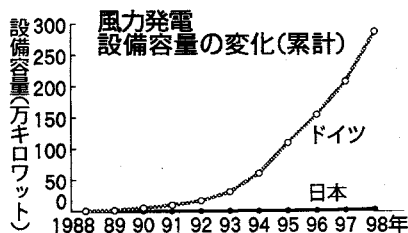
ドイツ政府は、こうした風力発電の特長を評価し、コール前政権時代に超党派で合意して91年から法律でバックアップしてきた。「自然エネルギー優遇買い取り法」で、風力発電や太陽光発電は、通常の電気料金の9割で電力会社が買い取るという制度だ。

例えば、一般の電気料金が1キロワット時あたり10円だとすると、風力発電でできた電気は9円で電力会社が買い取る。設置業者側からすると、9円より安く電気をつくれば、利益が見込めることになる。このためドイツでは多くの企業や団体が「風力に投資すれば、もうけることができる」と判断し、建設に拍車がかかった。その結果、90年と比べて現在は50倍以上の発電能力になり、関連産業は隣国のデンマークを含めて、約2万人の雇用を生み出した。

昨年10月に成立した社会民主党・緑の党連立政権は「自然エネルギーと省エネ促進は最優先事項」で政策合意した。この4月からはエネルギー税を導入し、その税率をエネルギーの効率化や自然エネルギーの開発、促進に充てる。

欧州連合（EU）も、自然エネルギーを2010年までにエネルギー全体の12

△風力発電▽自然エネルギーの中では低コストで、クリーン、無尽蔵が特長。日本は98年末に約100基・最大発電容量約3万キロワットで、ドイツの約90分の1、10年前のレベルだ。世界的に見ても日本は第12位。技術や開発能力はありながら、導入が遅れているといわれる。



％に増やす計画を持つ。現在の2倍の規模だ。原子力大國フランスも、省エネや自然エネルギー開発予算を20億円から100億円に増額した。仏環境大臣技術補佐官のベルナル・ラポンス氏は「原発の比率を減らし、エネルギーの多様化を目指す」と説明した。

【大島 秀利】おわり

ドイツは電力の約30%を原発に依存している。この比率は日本とほぼ同じだ。エルベ川畔、ニーダーザクセン州コアレン村へ行った。人口約600人。見渡せば山が見えない牧草地帯だ。比較的安全していることされる岩塩層(塩が岩石状に固まった地層)があり、ドイツ政府は深さ約800mの穴を本掘り、高レベル放射性廃棄物の最終処

振り返って日本はどうか。
今の日本の高レベル放射性廃棄物最終処分は「ステンレス容器に詰めて深地層中に安全に埋設する」方針だ。ひたたにいえば、人間の手の届かない深い所に置いて埋めっぱなしにする、というところだ。仮に、放射能の害がはばくなくなるのが50万年とてても、それほど安定した地層がこの地震国のどこにあるのだろうか。にわかには信じられない。1

84

「未来構想」テーマに松江でシンポ

「工区」は干陸せず 漁業振興に

小松HNS研究所代表が私案

中瀬・本庄工区の将来的な利用構想について、小松電機産業の小松昭夫HNS「人間・自然・科学」研究所代表は二十三日、「工区」は干陸しない栽培漁業に利用し、貯木場周辺と西部にHNS研究所が松江市内のホテルで聞き約五百人を集め、統一して聞かれた。

シンポジウムは、「本庄工区の未来構想」をテーマにHNS研究所が松江市内のホテルで聞き約五百人を集め、統一して聞かれた。

代表は、本庄工区を中心として、総合企画研究事業の栽培漁業関連事業の有機的・薬関連事業の水処理関連事業の知的観光事業の抽出するべきとし、農業と漁業を中心とした国家的なプロジェクトとして先端産業の抽出を図るべきことを挙げた。

統一して聞かれたパネルディスカッションでは、岸農林環境研究会代表が「ヘドロのしゅんせつ」は問題があるとして、その理由に「流動性の高いヘドロは、大量の泥を排出し、最終処分が困難な事業効果が得られない」とを挙げた。その上

で同代表は循環処理システムを導入した水処理をあげ、廃棄物を吹き込んで土質を改善したヘドロの農業利用を提案した。

このほか、坂本最良徳医科大教授は、汽水咸の生態系を活かすことの重要性を、長谷川泰治株式会社テクノ研究所代表取締役は「日本海文明の時代が来る時、本庄工区は普通のテーマを出せ」とそれぞれ訴えた。



二十三日にあったシンポジウム。話はヘドロの除去方法、農業振興におよんだ。

(島根日日新聞 H8.9.24)

中海の夢 一冊の本に



「母なる中海」を手にする小松社長

小松電機産業社長の
提案を森氏が執筆

干拓に賛成か反対で揺れる島根県の中海(なかつみ)問題に新たな活用方法を提案したの小松昭夫社長の主張が「イマモンド社、森清著」になった。

「小松私案」は海水と淡水が混じり合う汽水湖として世界的にも有数の資源である中海を利用、栽培漁業や農業、観光などを核にして「自然と人間が溶け合った二十一世紀の新産業を創造する」というもの。

「太陽プロジェクト」と名付けており、官に頼らず民間の賛同者による出資と組織(ベンチャー・カパ・アミ・太陽)で事業を推進する。

これまで多くの中小企業、経営者を紹介してきた著者の森氏(山野美容芸術短期大学教授)は「夢とロマンと使命感が際立っている。地域に根差す中小企業の経営者にぜひ、読んでほしい」と語っており、小松社長も「これからが夢実現の勝負」と新たな闘志を燃やしている。

(松江)

(日刊工業新聞 H9.12.9)

中海から羽ばたけ、世界へ熱いメッセージ（中央が森清氏の著書「母なる中海」）



情熱は宇宙へ広がる

「母なる中海」(森清著、ダイヤモ
ンド社)という本に出会いました。干

い考えたらいかがでしょうか？

先日、「母なる中海」汽水湖は二一
世紀文明の子宮」(森清著、ダイヤモ
ンド社)という本に出会いました。干

い考えたらいかがでしょうか？

さて、本題に入りましょう(五月二
十一日付に続く)。「そうです、そう
なんです。だから「もーだめだ」と
か「やっても無理だ」とか「田舎はダ
サイ」など、マイナス発想の言葉は嚴
禁なのです。会社の中なら「マイナ
ストーク一回につき百円の罰金」ぐら
い考えたらいかがでしょうか？

はい、どうでしょうか？

音楽の世界でもよく言われますが、
「聴覚に優れたシンガー(ステイビ
ー・ワンダー)は歌がうまい」など、
音(ことば)は聴力とは比例するの
ではないでしょうか？

そうですね、聞き分けって存
在ですか。私はDJをしているせいか、
この聞き分けが案外得意なんです。実
際、家などでテレビを見ながらレコー
ドを聴けるので、とっても便利です。
時間の節約にもなりますし、(他人に
言わせると、変態なそうです)。

さて、本題に入りましょう(五月二
十一日付に続く)。「そうです、そう
なんです。だから「もーだめだ」と
か「やっても無理だ」とか「田舎はダ
サイ」など、マイナス発想の言葉は嚴
禁なのです。会社の中なら「マイナ
ストーク一回につき百円の罰金」ぐら
い考えたらいかがでしょうか？

先日、「母なる中海」汽水湖は二一
世紀文明の子宮」(森清著、ダイヤモ
ンド社)という本に出会いました。干

い考えたらいかがでしょうか？

さて、本題に入りましょう(五月二
十一日付に続く)。「そうです、そう
なんです。だから「もーだめだ」と
か「やっても無理だ」とか「田舎はダ
サイ」など、マイナス発想の言葉は嚴
禁なのです。会社の中なら「マイナ
ストーク一回につき百円の罰金」ぐら
い考えたらいかがでしょうか？

先日、「母なる中海」汽水湖は二一
世紀文明の子宮」(森清著、ダイヤモ
ンド社)という本に出会いました。干

い考えたらいかがでしょうか？

さて、本題に入りましょう(五月二
十一日付に続く)。「そうです、そう
なんです。だから「もーだめだ」と
か「やっても無理だ」とか「田舎はダ
サイ」など、マイナス発想の言葉は嚴
禁なのです。会社の中なら「マイナ
ストーク一回につき百円の罰金」ぐら
い考えたらいかがでしょうか？

先日、「母なる中海」汽水湖は二一
世紀文明の子宮」(森清著、ダイヤモ
ンド社)という本に出会いました。干

い考えたらいかがでしょうか？

さて、本題に入りましょう(五月二
十一日付に続く)。「そうです、そう
なんです。だから「もーだめだ」と
か「やっても無理だ」とか「田舎はダ
サイ」など、マイナス発想の言葉は嚴
禁なのです。会社の中なら「マイナ
ストーク一回につき百円の罰金」ぐら
い考えたらいかがでしょうか？

先日、「母なる中海」汽水湖は二一
世紀文明の子宮」(森清著、ダイヤモ
ンド社)という本に出会いました。干

い考えたらいかがでしょうか？

さて、本題に入りましょう(五月二
十一日付に続く)。「そうです、そう
なんです。だから「もーだめだ」と
か「やっても無理だ」とか「田舎はダ
サイ」など、マイナス発想の言葉は嚴
禁なのです。会社の中なら「マイナ
ストーク一回につき百円の罰金」ぐら
い考えたらいかがでしょうか？

先日、「母なる中海」汽水湖は二一
世紀文明の子宮」(森清著、ダイヤモ
ンド社)という本に出会いました。干

い考えたらいかがでしょうか？

「世界には、多種多様な言語が
あります」
そもそも「言葉とは何だろうか」と
考える「音」おの「の」変形と、と



隔週水曜
シリーズ

らえられます。宇宙創造について「音
が先か、光が先か」と、よく言われま
すが、インドのヨガの考え方は宇宙
が誕生した時に「あーおーむ」と言
したそうです(そういえば日本には、
これによく似た発音で「あーん」の呼吸
という表現がありますね)。
例えば、赤ちゃんが母胎から生まれ
た瞬間「オギャー」と第一声を発しま
すが、生まれて自分の間は、光は感じ
るものの目はほとんど見えないそう
です。しかし、しっかりと耳は聞こえて
いるのか！

拓問題でも揺れる中海を中心に、二十
一世紀の日本と世界へ向けて、独自の
「夢とロマンと使命感」に生きる、地
元山陰のベンチャー企業経営者の考え
と、山陰を愛する男としての情熱が如
実に描かれていました。
その中でも「今やらずにいづやる。
俺がやらずに誰(たれ)がやる！」
「歴史は一人から始まる、歴史は一人
ではできない！」が特に印象深い主張
です。
こんなに小さな本でもみんながそ
う思えば、最高の山陰、最高の日本、
最高の世界と宇宙まで広がっていくよ
うな気がします。
(マイナストーク撲滅キャンペーン
実行委員長・太田丈盛でした)

(山陰中央新報 H9.6.4)



ゼロエミッション・小規模理想郷（中海・宍道湖圏域の新構想）

「観光風力発電施設」「石碑公園」「観光農園」 イメージ



ゼロエミッション・小規模理想郷（中海・宍道湖圏域の新構想）

「ドリームマリンランド」「海・島・山の中で暮ら理想住空間」 イメージ

4. 未来を拓く研究・教育機関

趣 旨

「太陽の國出雲——地球ユートピアモデル事業」構想を議論、計画、そして自己発展的に具現化するプロセスを通して、「人物」の養成を行う機関です。

人類の英知が芽生える社会の創造に向けて、21世紀を担うリーダーを輩出するべく、

- ①命の原点の体感と、教育による死生観の確立
- ②言葉と表情、コンピュータ・テクノロジーを活用したコミュニケーション能力の向上
- ③専門知識・技術の習得

の3点を基本に、「人物」養成のためのカリキュラムを研究開発。

概 要

資質ある人々を公募。

「人類の特性とは」「人間の定義とは」という根源的・多面的・長期的視点から歴史、哲学、経営学、テクノロジーを学習・研究。

また、本事業を具現化するための議論・構想・調査・設計・建設・運営の各段階を通じて、「実学」を教育。

人類共通の目的「天寿が全うでき、楽しく愉快に持続的に生きられる地球社会の創造」をめざし、地政学的・今日的社会問題の中から目標を定め、それを具現化する過程で進化していく人物を養成する「インキュベーター（孵化器）学園」。

経営革新の新戦略

「ナレッジ・マネジメント」

⑬

△領域を超え共同創造の場
▽昨秋、米カリフォルニア大学バークレー校に日米



「ナレッジ・マネジメント」を
受けて「知識の
創造と移転」が
焦点となった。

研究最前線⑬

欧の知識研究者と企業幹部
約四十人が集まった。今最
先端をいく注目のナレッジ
・フォーラムである。この
定例会をリードするのは同
校の知識学特別名誉教授職
と企業幹部が一堂に会し、

対話を通じて、知識につい
て領域を超えた共同創造の
場を形成していることだ。
参加者は個の創造性と組
織環境の本質を様々な研究
事例から探究した。さらに
知識の応用の基礎となり、

る▽では一体、どのような
ものになるのか。そこでは
日本の「場」の概念が注目
された。場とはナレッジワ
ーカーが共有する知的、情
的相互関係性が創出される
物理的、心理的空間をいう。
・S・ブラウン所長は、プ

もの」として新たな経営言
語を示唆した。
△知識時代のリーダーシ
ップ▽知識時代には組織構
造と共にリーダーシップの
あり方も変化を迫られる。
指示を与えるマネジメント
よりも、人を発奮させるリ

になることによるマネー
ング」も重要であることが
指摘された。
バークレー校でのこうし
た領域を超えた対話は①知
識創造と産業能力②知識移
転と企業の組織学習③継続
的イノベーションの組織化

を語り、企業知力の向上法、
ナレッジ・マネジメントの
未来、さらにはクリエーテ
イブビジネスと知識につい
て熱心に語り合った。この
フォーラムの成果は同校の
「カリフォルニア・マネジ
メント・レビュー」(一九
九九年春季号)に論文集と
してまとめられ、世界に発
信される。

関心高まる「場」の概念

同時にその創出に影響する
知識の共有や利用の技術、
構造にも言及した。その結
果、真に有効な将来の知識
組織は、今日の企業のもの
とは非常に異なるであろう
ということだった。

こうした共感の場と信頼
に基づく対話の場を通じ、
個の暗黙知(表出化以前の
知識)が豊かになり、新た
な知識が生み出されている
ことが報告された。場とプ

ラクトイスのコミュニティ
では、従来のマネジメント
とは全く異なる見方が必
要であると主張。「知識の
生態系(ナレッジ・エコロ
ジー)は、基本的にダイナ

場台によりマネジメント
は、管理すべきでない時を
知り、触発や世話(ケア)
が必要な時を知ることであ
る。「完全に見えない存在

脈の役割」という重要
課題にまで及んだ。翌日は
共創の成果をサンフランシ
スコ・ベイエリアの人々
に、オープンフォーラムと
して一般公開した。

ピーター・ドラッカー氏
らを交え知識の世紀の到来
を語り、企業知力の向上法、
ナレッジ・マネジメントの
未来、さらにはクリエーテ
イブビジネスと知識につい
て熱心に語り合った。この
フォーラムの成果は同校の
「カリフォルニア・マネジ
メント・レビュー」(一九
九九年春季号)に論文集と
してまとめられ、世界に発
信される。

△知識の生態系を育て

ユニティの概念は、東洋
するものでなく、はぐくむ

が必要なのを知ることであ
る。「完全に見えない存在

を語り、企業知力の向上法、
ナレッジ・マネジメントの
未来、さらにはクリエーテ
イブビジネスと知識につい
て熱心に語り合った。この
フォーラムの成果は同校の
「カリフォルニア・マネジ
メント・レビュー」(一九
九九年春季号)に論文集と
してまとめられ、世界に発
信される。

を語り、企業知力の向上法、
ナレッジ・マネジメントの
未来、さらにはクリエーテ
イブビジネスと知識につい
て熱心に語り合った。この
フォーラムの成果は同校の
「カリフォルニア・マネジ
メント・レビュー」(一九
九九年春季号)に論文集と
してまとめられ、世界に発
信される。



未来を拓く研究・教育機関
イメージ

●「太陽の國出雲——地球ユートピアモデル事業」 構想の誕生過程

- 1988年4月 島根県商工会連合会とタイアップ、若手経営者20名を集め小松電機産業創業の場所にて「知草塾」を始める。
- 1989年6月 異業種7社で協同組合「テクノくにびき」設立。設立記念式典、参加者300名。
- 1990年10月 韓国企業「東宇技研」とシートシャッター「門番」の業務提携。
- 1991年1月 中小企業研究センター賞受賞（社団法人中小企業研究センター）
- 1991年10月 ニュービジネス大賞受賞（社団法人ニュービジネス協議会）
- 1993年1月 地域社会貢献者賞受賞（日刊工業新聞社）
- 1994年11月 「神在月縁むすび全国大会」開催。参加者260名。基調講演：ピーター・タスカ氏（クラインオート・ベンソン証券会社ストラテジスト）。パネラー：下村澄氏（(社)ニュービジネス協議会顧問）、ピーター・タスカ氏、小松昭夫（小松電機産業（株）社長）。分科会座長：大西啓義氏（アクティビビジネス（株）社長）、武原誠郎氏（イムカ（株）社長）、植原紘治氏（隼塾塾長）、橋谷博氏（気象湖沼学研究室代表・前島根大学理学部教授）、首藤健次氏（(株)マザーズシステムジャパン社長）、分科会コメンテーター：岸博氏（農村環境研究会代表）、治郎丸明穂氏（エディター）、小室孝太郎氏（漫画家）、山田鋭次郎氏（東洋化工（株）社長）、影山和夫氏（島根中央ホンダ（株）社長）、藤原洋氏（(株)エリアサイエンス・総合政策研究所所長）
- 1995年4月 HNS（人間・自然・科学）研究所設立。代表：小松昭夫。
「一村一志運動」提唱。『治水の偉人周藤彌兵衛』（漫画・児童文学・小説）発行。「周藤彌兵衛シンポジウム」開催。参加者280名。コーディネーター：長野忠氏（山陰中央新報社論説主幹）、パネリスト：村尾靖子氏（児童文学者）、小室孝太郎氏（漫画家）、唐沢勝敏氏（全国中学校社会科教育研究会長）、内田充則氏（島根県企画振興部参事）、内田文恵氏（島根県立図書館主幹）、交易場修（ライター）
- 1995年4月 第54回注目発明選定証受証（科学技術庁）
- 1995年6月 「人と水と食のシンポジウム」開催。参加者250名。講師：久司道夫氏（イースト・ウエスト・ファウンデーション会長・食と平和への貢献でスミソニアン博物館殿堂入り）、岸博氏（農村環境研究会代表・ラグーン式水処理の開発者）
- 1995年11月 「第1回神在月縁むすび世界大会」開催。参加者600名。主催：世界八百万委員会・会長千家尊祐氏（出雲大社権宮司）、事務局長・山本謙氏（(財)しまね技術振興協会顧問）、ヒーリングミュージック：宮下富美夫氏（音楽家）、基調講演：草柳大蔵氏（評論家）、久司道夫氏、パネラ

- ー：下村澄氏、朴熙澤氏（在日本韓国民団島根県地方本部団長）、望月照彦氏（多摩大学教授）、久司アベリヌ偕子氏（久司道夫氏夫人・マクロビオティック啓蒙家）、中村豊秀氏（ヒューマンコミュニケーションセンター所長）、分科会座長：橋谷博氏、井上裕義氏（(株)風土プラン社長）、分科会コメンテーター：植原紘治氏、岸博氏、首藤健次氏、武原誠郎氏、話題提供者：佐野茂氏（元鳥取県水産試験場境港分場技術士）、石飛裕氏（島根県衛生公害研究所）、中西正己氏（京都大学生態学研究センター教授）、召古裕二氏（日本ミクニヤ(株)社長）、木村俊博（HNS研究所所員・元島根県環境保全課長）
- 1996年3月 地域活性化貢献企業賞受賞（日本経済新聞社）
- 1996年5月 HNS研究所「中海本庄工区の未来構想」発表会開催。参加者500名。講師：久司道夫氏、小松昭夫（HNS研究所代表）
- 1996年9月 HNS研究所「中海本庄工区の未来構想」シンポジウム開催。参加者500名。講師：安達生恒氏（島根大学名誉教授）、小松昭夫、パネラー：坂本巖氏（島根医科大学助教授）、長谷川泰治氏（(株)テクネ研究所代表取締役）、岸博氏
- 1996年9月 研究会「ベンチャーアカデミー太陽」設立。
- 1997年3月 「第2回縁むすび大会」開催。参加者600名。講師：斑目力曠氏（ネミックラムダ(株)会長）、望月照彦氏、七田真氏（米国ニューポート大学日本校教育学部教授）、竹内日祥氏（日蓮宗妙見閣寺住職・国際永久平和祈念祭典協議会理事長）、孔健氏（チャイニーズドラゴン新聞社社長兼主幹・孔子の75代直系子孫）、大西啓義氏、日野佳恵子氏（ハートストーリー代表取締役）
- 1997年5月 ダイヤモンド社刊・森清著『母なる中海—汽水湖は二一世紀文明の子宮』出版。
- 1997年6月 韓国独立記念館に100万円を寄贈。
- 1998年1月 HNS研究所『治水の偉人・清原太兵衛』（漫画・児童学・小説）発行。シンポジウム開催。参加者250名。講演：藤岡大拙氏（島根県立女子短期大学学長）、パネラー：長野忠氏、寺井敏夫氏（小説著者・JA共済連代表理事専務）、村尾靖子氏、小室孝太郎氏、福井哲郎氏（前生馬公民館館長）、朝山芳圀氏（佐太神社宮司・清原太兵衛顕彰会理事）
- 1998年5月 中国『伝世蔵書』を島根大学に寄贈。
- 1998年7月 韓国赤十字に北朝鮮食糧援助資金500万円を寄付。
- 1998年8月 島根、東京（9月）で開かれた「共生文明フォーラム・混迷からの脱出」で文明法則史学の林英臣氏、小松昭夫講演。参加者200名。
- 1998年10月 小松電機産業(株)セミナーホールにて環境微生物学博士・高嶋康豪氏の講演会開催。演題「新たな地球と生命の蘇生に向けて」。参加者200名。（高嶋博士は1999年6月、ラスベガスでの国際学士院第3回世界大会で「環境と微生物および動態系科学とニューサイエンスについて」のテーマで基調講演、その理論を世界に向けて発信）

（※肩書は当時のものです）

異業種7社で新事業

テクノ
くにびき
松江で設立記念式典

松江市、八雲村に本社を置く自動制御装置メーカー、運送業、コンピュータソフト開発、建設業など業種の異なる企業7社が、技術・経営ノウハウを統合した新しい事業展開を目指して四月に設立した協同組合「テクノくにびき」の設立記念式典が十六日、松江市千鳥町のホテル一畑で開かれた。

小松電機産業、小松電気製作所、八雲自動車、システム工房エム、大島タンポール、新陽電工、岩田建設の七社。当面、小松電機産業の開発した自動制御シートシステムと上下水道計装システムの応用化に取り組む。シートシステムの応用については、国の中小企業融合化組合の認定準備を進めている。また、長期戦略として、



協同組合「テクノくにびき」設立記念式典であいさつする小松昭夫理事長—松江市千鳥町、ホテル一畑

記念式典には、地元企業の経営者ら約三百人が出席。小松昭夫理事長が「利益追求でなく、人間らしい生き方を求めて協同組合を設立しました。異業種が協力してテクノロジーで新しい事業を起こし、島根県の発展に少しでも

(山陰中央新報 H1.6.17)

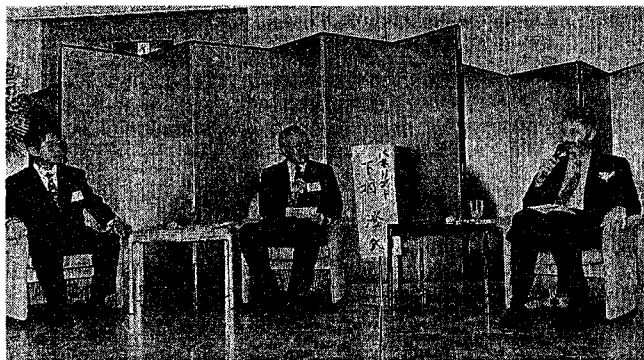
時代は「組織から個人」

講演など国際経済学ぶ

松江で神在月
全 国 大 会

激動する国際経済など世界レベルの問題を、全国の

神々が集う出雲の地で考えるという、「神在月縁むすび全国大会」（同会実行委員、県、県商工会連合会主催）が二十六日、松江市千鳥町のホテル一畑で行われた。大会には県内外の財界人ら約二百六十人が参加。まず、英国クライント・ペソン証券会社ストラテジストのピーター・ダスカさんが「企業家精神の回復と日本の元気の回復」のテーマで基調講演。「世界的不況で資本主義が行き詰まる中、日本経済も成長から成熟に向かわなければならぬ」と主張。また「企業が人材を育てるのではなく、優れた人材が企業を興す」と、システムの時代から個人の時代への変化を強調した。



国際経済について意見を交換するパネリスト—松江市千鳥町、ホテル一畑

(山陰中央新報 H6.11.27)

和食の知恵を世界に

人と水と 食のシンボ 250人参加、意見交換

松江



自然食メニューを囲んで交流する参加者たち
＝松江市朝日町の松江東急イン

環境保護や自然食に関心「食のシンポジウム」が七日、山陰県から約三百五十人を招き、松江市朝日町の松江東急インで開かれた。

小松昭夫同シンポ実行委員長が「出合いの第一歩」とあいさつ。独特のバイオ処理法で湖沼浄化に取り組む津田氏（農林環境研究会）の報告に続き、国際的な自然食運動を指導する久司道夫氏が「健康の快便と世界平和」と題して講演した。肉食偏重など各国での食生活の乱れや健康破たんに触れた久司氏は、「環境に支配される人間だが、自らの食物はコントロールが可能。調和のとれた日本食は世界で最も優れている」と述べ、自然と食文化を残す山陰から伝統食の知恵を世界に伝えようと呼びかけた。

講演後の交流会では、有機農産物でできた作物や新鮮

な地元産の食材を使い、「小豆入り玄米ご飯」「アヲのパン粉付焼き」など十五種類の特別メニューが、全国大会（会場・松江市）すの。参加者は舌鼓を打ちながら情報交換をし合っ

(山陰中央新報 H7.6.9)

21世紀へ世界の共生探る

「神在月縁むすび世界大会」

文化経済人講演、討論熱っぽく

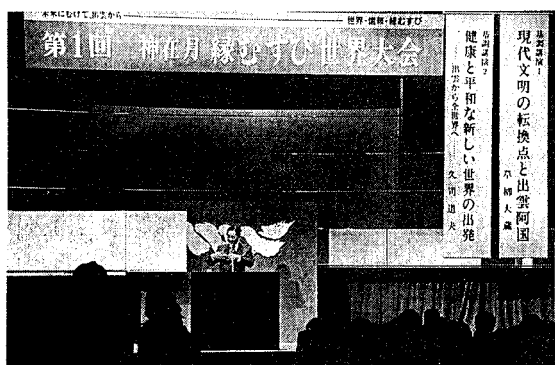
松江

縁結びの神話でゆかり、二十一世紀に向けての共通の出雲地方で、人間同士の目的、目標を深めあつた。国際的な信頼関係を築くことと、二十日、「第一回神在月縁むすび世界大会」が松江市西川津町のくにびきメッセで開かれた。参加者らは講演、パネルディスカッションを通して「参加した」。

大会は前衛音楽（ヒーリングミュージック）の宮本富美夫氏のライブで開幕。評論家の草柳大蔵氏、哲学者の久司道夫氏がそれぞれ講演。小松昭夫氏が松電機産社長の五人のパネリストが「世界との共生・競争を目指して」をテーマに討論するパネルディスカッション、分科会があった。

このうち草柳氏は「現代文明の転換点と出雲阿国」をテーマに現代文

明が何を生んだのかを説明。「これからの文明は知識の積み重ねではなく、知恵の再生産」として人間の在り方を提言した。



現代の文明について講演する草柳大蔵氏＝松江市西川津町のくにびきメッセ

(山陰中央新報 H7.11.24)